

# DURC

WILD ROVER CREW vol.026



2017.11-2018.11

力漕

同志社大学  
体育会ボート部

# CONTENTS



- 02 戦績ハイライト
  - 02. 第71回記念大会朝日レガッタ
  - 05. 平成30年度関西選手権競漕大会
  - 07. 第45回全日本大学選手権大会
  - 09. 第96回全日本選手権大会
- 10 2019年度練習計画
- 11 新歓隊長の視点から見た同志社大学ボート部
- DURC TOPICS 2018
- 12 メキシコオリンピック出漕50周年記念式典開催

- 13 DURC TOPICS 2018 世界選手権を終えて ~櫻間 達也
- 14 艇友会インタビュー  
宮川 滋 先輩(昭和46年卒)  
貝賀 俊之 先輩(昭和58年卒)
- 18 卒業生の言葉
- 24 2019年度現役部員紹介
- 30 コーチングスタッフ紹介
- 32 平成30年度ボート部にご支援いただいた皆さま

いつも艇友会の皆さまには、ボート部の活動のみならず、現役生の就職活動支援など、いろいろな側面から温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2018年度の戦績は、関西選手権競漕大会では、男子エイト、男子舵手なしクォドルプルが優勝、全日本大学選手権大会では、男子舵手なしクォドルプルが準優勝を果たしました。毎年1月に開催される同志社スポーツユニオンの祝勝会では、その年度の優秀な戦績をおさめた団体、個人が表彰されます。上記のような戦績から、ボート部は優秀団体賞を受賞し、櫻間達也君が優秀個人賞、西村雅親君と小島佑太君が新人賞を受賞しました。さらに、優秀監督として武田知也監督が表彰されました。このように個人のみならず部全体として表彰されたことは大変嬉しいことであります。

これも、艇友会会長や幹事をはじめ、艇友会の皆さまからの長年にわたるご支援の賜物であると、本当に心より感謝申し上げます。他部のOB・OG会では寄附を集めるのにもかかわらず、皆さまには本当に厚い、熱いご支援をいた

## 『力漕』vol.26 発刊に寄せて



同志社大学体育会ボート部  
部長  
志賀 理

だいております。もしスポーツユニオンの表彰のなかに、優秀OB・OG会賞があれば、艇友会が表彰されるのは間違いないと思っております。

ボート部は今、部員全員がボート競技の高みを目指すという、まさに団体競技としての組織的な機能が生まれはじめています。部員同士が信頼関係を構築し、種目は異なっても、共通の目標、目的を持ち、先輩、後輩問わず、お互いがライバルとして切磋琢磨して、個人の競技力向上を図りながら、部全体の競技力が高まり、上記のような結果に繋がってきているのではないのでしょうか。しかし、この雰囲気はまだ堅固なものではなく、最上回生が少しでも甘い考えに向けば、一瞬で崩れ去ってしまうでしょう。このような雰囲気は1年でできるものではなく、何年もかかって堅固なものになっていくものだと思います。この意味で、部全体としてこれから立ち向かうべき壁は「継続(部全体としての向上心の継続)」だと思います。

艇友会の皆さまには、どうか今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



誰かが、誰かを支えている。  
想いの力で支えている。

結果ではなく、過程に寄り添って。  
単なる応援、声援を超え、  
もっと近く、もっと深く、向き合って。

「勝ってほしい、だけじゃない」。

その想いがつらなり、重なって、  
新しい未来が生まれる。  
ひとりではできなかったはずのことが、  
きっとできるようになる。

東京2020オリンピック・パラリンピック。  
それはアスリートだけのものではない。

全力を尽くすひとを、  
あなたが全力で支える時、  
支えるあなたも、主人公のひとりになる。

Play,  
Support.  
さあ、支えることを始めよう。



東京 2020 ゴールドパートナー(生命保険)



生28-H-129 業務部



**戦績**

2018.5  
↓  
2018.11

# ハイライト



**M8+B**

C: 山口 弘人(商3・藤島) 4: 浦羅 陽介(商2・星陵)  
S: 大谷 鋭周(文3・函館ラ・サール) 3: 竹内 努(スポ健2・松本第一)  
7: 中野 昂士(商2・宇部) 2: 澤 駿大(経4・東大津)  
6: 大谷 大(経3・高槻北) B: 桑田 大輝(クロ地2・姫路東)  
5: 原田 遥大(理工4・清教学園)

**M4+A**

C: 白水 亮兆(商2・筑紫丘) 2: 高本 正之甫(法2・高槻)  
S: 神宮 健輔(経3・広尾学園) B: 高野 敦(文4・神戸甲北)  
3: 中澤 正浩(経3・甲南)

**M4+B**

C: 村上 真哉(商3・四條畷) 2: 大慈 智哉(商3・兵庫)  
S: 加木 康平(社2・夕陽丘) B: 長谷部 正也(法2・長良)  
3: 末次 真夏(政策4・東福岡)

**W4x+**

C: 福井 彩夏(スポ健3・同志社女子)  
S: 永富 千尋(経2・東苑)  
3: 齋藤 暢子(商4・本荘)  
2: 山根 彩那(経2・京都女子)  
B: 竹本 咲良(文3・城南)

例年よりパワーのあるクルーだったが、スタートでサイド負けなどの影響により真っ直ぐ進まず他艇に出られるレースが続いた。スタートで出られるがコンスタントで追いつき引き離すレースで決勝に行けた。しかし、決勝ではスタートで出られた差をコンスタントで巻き返すことができずそのまま行かれてしまった。技術力をまだまだ伸ばしていかなくてはならないと痛感させられるレースだった。ま

**M8+A**

C: 藤本 亮(政3・桜塚)  
S: 櫻間 達也(法4・京都産業大学付属)  
7: 石田 大知(商4・明星)  
6: 山田 優正(法2・白陵)  
5: 藤原 嵩(法3・同志社)  
4: 中村 魁(法3・洲本)  
3: 田川 凌大(政3・六甲アイランド)  
2: 藤原 駿也(経4・開明)  
B: 久保 剛(法4・同志社香里)

第71回  
**朝日レガッタ**

2018年 5月3日~6日  
於：琵琶湖漕艇場



だシーズンが始まったばかりだが、もう猶予はない。ここからさらに、クルー全員で技術力を身につけ研ぎ澄ませていきます。皆さまの熱いご声援、ありがとうございます。(石田 大知)

**レースNo.190 決勝(12:30発艇)**

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	神戸大学	6	2'58"63
②	関西大学	5	2'58"23
③	<b>同志社大学 A</b>	2	2'52"31
④	東し滋賀	1	2'46"91
⑤	龍谷大学	3	2'54"19
⑥	大阪市立大学 薫風	4	2'55"94

2回生4人の若いクルー。経験・技術不足をガッツでカバーし、クルー編成期間中は対校含めどのクルーよりも強度が高く、大きなポリウムで練習できた。1000mのタイムは10秒短縮するなど、成長スピードはかなりのものがあつたが、当初目標にしていた3分00秒切りは一度も達成できなかった。大会を振り返ると、やはりこの実力不足が露呈したと考える。また対応不足は、毎日大会当日を見据えて練習できていたかというところに尽きる。この経験を無駄にせず、残り123日後のインカレの全クルー最終日という目標に向かって進んでいく。(山口 弘人)

このクルーは4回漕手1名、3回漕手2名、2回漕手1名と2回COX1名で構成され、決して若いクルーではなかったです。しかし日々のモーションではなかなか満足のいく艇速が出ず、試合直前でも上手く仕上がっていかると言える状況ではありませんでした。その状況を踏まえると、予選のあれほどのラフコンの中、最後に相手を差し切り準決勝に駒を進められたことには、クルー全員が驚き、そして心の底から喜んだ瞬間でした。ですが、準決勝のレースではやはり自分たちの技術不足が露見し、結果としては4+Bにも負ける、一番不甲斐ない瞬間も味わいました。今回の朝日レガッタから学んだことは、日々のモーション以上のパフォーマンスは、やはり大事な時には出せないということ。日々のモーションでの完成度を確保するものとし、これから待ち受ける関西選手権やインカレに向けて精進していきます。(中澤 正浩)

予選ではコンディションが非常に悪く、風も強く吹いていたためミスが減らし横の艇を気にせずリズムを重視することを心掛け、無事準決勝に進めた。準決勝ではスタートスパートで3位につけ、最後レートを大幅に上げ追いつけるも2位の岡山大にあと1秒及ばず敗退という悔しい結果に終わってしまった。しかし大会を通して同志社4thクルーとして2、3回生を中心としたチームでレースに挑み、他大学の対校クルーと十分に戦えた経験はこれからの試合へ繋がる大きな収穫であったと感じた。(末次 真夏)

予選では得意としてきたスタートが決まり、龍谷大と神戸大と競ることができたが中盤のスパートで上げきれず競り負け敗復へ。敗復は悪天候により行われずタイム上がりで準決勝へ進出できたが、引き続きの悪天候で500mレースに。準決でも余裕を持ってスタートで出られたものの、再び龍谷大と神戸大と競り、3艇上がりだからそのままならいけると思っていた矢先、予選では勝っていた大阪大Aに結果0.4秒差で競り負けた。敗因は、ここぞというところで上げきれなかった気持ちとフィジカル面だろう。今後はそこをさらに突き詰めて勝ちにいく。(福井 彩夏)

**レースNo.165 準決勝1組(15:54発艇)**

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	大阪大学 B	6	1'27"99
②	関西大学	3	1'24"33
③	関西学院大学	5	1'26"46
④	龍谷大学	2	1'23"94
⑤	東し滋賀	1	1'21"02
⑥	<b>同志社大学 B</b>	4	1'25"42

**レースNo.155 準決勝2組(14:54発艇)**

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	京都大学	6	1'48"59
②	中国電力しまね	1	1'40"15
③	岡山大学「六花」	2	1'42"56
④	レジェンド to 鳥根	4	1'45"34
⑤	<b>同志社大学 A</b>	5	1'47"09
⑥	<b>同志社大学 B</b>	3	1'43"77

**レースNo.153 準決勝2組(14:42発艇)**

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	大阪大学 B	6	2'06"92
②	<b>同志社大学</b>	4	1'56"96
③	龍谷大学	1	1'54"40
④	神戸大学	2	1'55"21
⑤	大阪大学 A	3	1'56"50
⑥	滋賀大学教育学部 快	5	2'04"49

全日本大学選手権を制覇するための通過点として戦った関西選手権だった。そのため1000mまで3艇身以上突き放し勝負を決め切る。1000m以降は自艇集中で、どれだけ差を広げることができるか。この2点を重視したレースプランで臨んだ。

レースプラン通り、予選、決勝ともにスタートから飛び出すことができ、早め早めのスタートでグングン突き放していった。ただ課題として、強い逆風やラダーの影響もあるが後半でさらに突き放す力が弱かったことが拳



- C:山口 弘人(商3・藤島)  
S:石田 大知(商4・明星)  
7:中村 魁(法3・洲本)  
6:藤原 嵩(法3・同志社)  
5:櫻間 達也(法4・京都産業大学付属)  
4:田川 凌大(政3・六甲アイランド)  
3:澤 駿太(経4・東大津)  
2:原田 遥大(理工4・清教学園)  
B:大谷 鋭周(文3・函館ラ・サール)

## 平成30年度 関西選手権 競漕大会



2018年 7月1日~2日  
於:浜寺漕艇センター



### レースNo.104 決勝1組(14:30発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
①	大阪大学	6	6'36"93
②	京都大学	3	6'24"36
③	同志社大学 A	優勝	6'14"75
④	大阪市立大学 薫風	2	6'22"37
⑤	関西大学	4	6'25"80
⑥	大阪府立大学 鳳麟	5	6'34"38

げられる。全日本大学選手権までに、後半で絶対にタイムを落とさないうちにさらに漕ぎ込んでいかなければならないと痛感した。

クルーの強みであるトップスピードにもさらなる磨きをかけ、全日本大学選手権でもスタートから一度も他艇に出られることなく勝てるレベルまで上げていく。

朝日、関西選手権で結果を残した。この勢いを持って日本一を獲る。(石田 大知)

### レースNo.100 決勝1組(13:30発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
①	岡山大学「六花」	3	7'02"03
②	チームえひめ	6	7'35"04
③	同志社大学 A	2	6'57"03
④	龍谷大学	1	6'54"48
⑤	金沢大学	4	7'14"75
⑥	大阪市立大学 勇	5	7'22"97

決勝でのレース展開としては第1Qで他艇を離し(龍谷大と1艇身差)だが、第2、3Qで徐々に龍谷大に詰められ、半艇身程出られた第4Qでスタートをかけたが及ばず、準優勝に終わった。

全日本大学選手権でさらなる成果を出すには、レース中盤も他艇に差をつけられるだけの技術力が必要であると感じた。加えて4人の漕ぎにズレがあるので細かいところを合わせていきたい。(藤本 亮)



- C:藤本 亮(政3・桜塚)  
S:山田 俊正(法2・白陵)  
3:中野 昂士(商2・宇部)  
2:藤原 駿也(経4・開明)  
B:久保 剛(法4・同志社香里)

### レースNo.97 決勝(12:45発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
①	立命館大学	4	6'51"97
②	東京外国語大学	3	6'44"30
③	同志社大学	優勝	6'26"68
④	龍谷大学	2	6'29"30
⑤	清風高校	6	6'58"53
⑥	名古屋大学	5	6'53"66

まずは関西選手権のクルー目標であった優勝を達成できたことを素直に喜びたいです。今年の全日本軽量級チャンピオンである龍谷を倒しての優勝は、3週間後に控えたインカレに向けて大きな自信になりました。

その反面、この大会でクルーの課題が見えてきました。インカレまで長くはないですが、この結果に満足することなく謙虚に練習していこうと思います。(安藤 優作)



- S:小島 佑太(商1・熊本学園大学付属)  
3:西村 雅親(社1・膳所)  
2:清水 諒(商3・宇部)  
B:安藤 優作(経済3・城南)

### レースNo.183 決勝(10:45発艇)

レーン	クルー	着順	1000mタイム
①	瀬田漕艇クラブ YS	4	3'23"01
②	龍谷大学 B	6	3'25"63
③	同志社大学 A	3	3'21"21
④	今治造船	1	3'13"46
⑤	龍谷大学 A	2	3'15"66
⑥	愛媛大学	5	3'23"55

3分20秒を目標タイムとしてレースに挑んだ。大会当日2カ月前の3月6日、メダル獲得を目標として結成したクルーは、上々の出来に飛び出し、他クルーとの差を保ち1着でフィニッシュ。準決勝は大荒れのコンディションの中、強豪実業団に競り勝ち決勝進出を決めた。決勝は前年優勝クルーなど強豪揃いであったが、無事3位でフィニッシュ。横波の影響により蛇行やミスオールを多発してしまっただけで2位と大差をつけられてしまったが、目標であったメダル獲得を達成した。(西村 雅親)



- S:小島 佑太(商1・熊本学園大学付属)  
B:西村 雅親(社1・膳所)

### レースNo.132 準決勝3組(11:54発艇)

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	近畿大学 A	5	1'53"81
②	広島大学 B	6	1'56"52
③	立命館大学 A	3	1'48"14
④	山口合同ガス B	2	1'47"03
⑤	愛媛大学	1	1'46"17
⑥	同志社大学 B	4	1'50"78

「決勝進出、3分25秒切り」を目標として挑んだ。結果は、準決勝敗退。ラフコンに力不足だった。決勝最下位の龍谷Bと同志社Aのタイム差は4秒。練習で同志社Aと並べたタイム差は6秒。ラフコンでなく、実力が出せなかった。決勝には進めなかったと思う。自身、3年連続ダブルスカルで準決勝敗退。そして、2人とも4回生で最後の朝日レガッタであったため、とても悔しい結果となった。ラストシーズン、関西選手権・インカレこそは勝つ。(岡本 晃壽)



- S:木村 俊貴(経4・智辯学園)  
B:岡本 晃壽(法4・同志社)

### レースNo.137 準決勝2組(12:24発艇)

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	関西学院大学	棄権	-
②	同志社大学 A	5	2'02"00
③	瀬田漕艇クラブ SI	1	1'52"56
④	陽進堂	3	1'55"94
⑤	立命館大学 B	4	1'59"87
⑥	滋賀大学教育学部 叶	2	1'55"15

スタートを課題とするクルーであったが、予選では持ち前のコンスタント力で他艇を離すことができ、今までの中で一番と言って良いレースができた。準決勝は500mレースのラフコンだったが、その中でも良いスタートを切れた。しかし競り合っていた中、波でパランスを崩し巻き返しを図ったが間に合わなかった。結果としては準決勝敗退となった。また、練習してきたものはすべて出し切れた大会だった。

まだまだ上位の大学と技術の差を感じたので、細かい技術を追求めし、決勝で戦えるクルーになれるよう精進する。(宇佐見 侑紀)



- S:谷 美緒(商2・同志社)  
B:宇佐見 侑紀(文3・富田林)

### レースNo.120 準決勝2組(10:42発艇)

レーン	クルー	着順	500mタイム
①	西田(同志社大学 A)	5	2'23"32
②	今村(香川大学)	4	2'19"69
③	大西(龍谷大学 A)	1	2'12"55
④	滝澤(北陸電気工業 B)	3	2'17"27
⑤	菅沼(龍谷大学 B)	2	2'16"97
⑥	中村(岐阜経済大学)	6	2'25"93

事前の計測では自己ベストを更新し、良い調子のまま臨めた大会であった。しかし、予選準決勝ともに波に翻弄され、リギング、漕法ともに対応できず不甲斐ない結果に終わってしまった。波風がある中でのキャッチの固定感を実現できるはずであったが、他艇に残された気持が焦り自分の漕ぎがでなかった。パワーに見合う水上でのテクニックを向上させるため、今後はさまざまなコンディションを想定した練習をしていく。(西田 樹乃)



- 西田 樹乃(社4・戸山)

レースNo.76 準決勝1組(9:30発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
5			
①	齋藤(同志社大学A)	5	9'10"51
②	足立(名古屋工業大学)	4	9'03"46
③	四方(鹿屋体育大学)	1	8'40"82
④	井上(瀬田漕艇クラブ)	2	8'44"53
⑤	山本(関西大学)	3	8'46"24

今回の関西選手権は、全レースを通じて700mから1500mの力感の不足を痛感した。特に予選と準決勝は、トップの艇に700m地点からかなりの差をつけられてしまった。敗因は一本一本の力感の差であった。またトップの艇が見えないレースで、自分との戦いにならぬよう、いかにトップの艇に粘り強く攻めていく姿勢が必要であるかも強く感じた。

準決勝進出という目標は達成することができたが、決勝に進出したクルーたちにもっと食らいついたレース展開をしたかった。(齋藤 暢子)



W1x A  
齋藤 暢子(商4・本荘)

レースNo.77 準決勝2組(9:40発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
5			
①	竹本(同志社大学B)	5	9'15"52
②	田原(山口大学)	4	9'02"84
③	福本(トヨタ自動車A)	1	8'38"32
④	川本(トヨタ自動車B)	2	8'45"60
⑤	栗原(チームえひめ)	3	8'49"59

はじめてのシングルでの2000mレースとなったが、目標であった準決勝に進むことができた。予選ではスタートから出遅れそのままゴールしてしまったが、敗者復活ではスタートから出ることができ、予選でアベレージが落ちたところで足蹴りを入れ、ラストスパートでは1位をさすことができた。

準決勝まで進むことができたものの、左右にふらついたり、中盤落ちてしまったりとまだまだ課題は残されているので、ひとつずつ克服していきたい。また、勝つ経験ができたことを自信にし、これからの経験を増やしていきたい。(竹本 咲良)



W1x B  
竹本 咲良(文3・城南)

レースNo.95 決勝1組(12:45発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
2			
①	立命館大学	2	7'15"43
②	山口合同ガス	5	7'31"37
③	品川リフレクトリーズ	1	7'08"86
④	九州大学	4	7'21"54
⑤	同志社大学	6	7'36"10
⑥	龍谷大学	3	7'18"85

まず予選。2着でゴールした。練習の成果を出すことに専念できた。

次に準決勝。気を引き締めた状態でレースに臨んだ。高ビッチの戦いだったが、コンスタントで引き離し、2着でゴール。

最後に決勝。素早く休憩を取り、ここからが本番という気持ちで臨んだ。山口合同ガスと5着争いを続けたが、逆風が増し、お互いが崩した瞬間に抜かれた。総合6着でゴール。

総括として、目標の10位入りを大きく上回り、練習の成果も出すことができたので、いい試合ができた。あとはインカレに向けて、さらに高レベルに仕上げた戸田へ向かうつもりである。(山本 幸之介)



M2x  
S:山本 幸之介(商3・三田学園)  
B:涌羅 陽介(商2・星陵)

レースNo.75 準決勝6組(9:20発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
6			
①	勝田(関西大学)	6	8'42"30
②	井上(瀬田漕艇クラブH)	5	8'36"52
③	須藤(岡山大学A)	1	7'59"61
④	藤岡(同志社大学C)	2	8'06"78
⑤	山下(高知大学)	3	8'14"42
⑥	大島(大阪工業大 豊)	4	8'23"88

予選は悪くないレースだったが、中盤、相手を意識しすぎて腹を切ったのと、ダブルが弱かったことが反省点だ。

準決勝はスタートとラストの上げが怖い選手とのレースだったので、スタートから食いつきコンスタントで差をつけていくプランだった。レースではかなりいい出だしで、700m地点までは出ていたが、相手のミドルで差をつけられそのまま自力の差で水をあけられ敗退した。相手を意識しすぎたり、ダブルでレートが出なかつたこと、中盤競り負けたことなど本番でのメンタルがまず課題だ。漕ぎは今一度一本の強さを意識していきたい。(藤岡 天翔)



M1x C  
藤岡 天翔(商3・修道)

レースNo.73 準決勝4組(9:00発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
4			
①	末次(甲南大学A)	4	8'40"78
②	森山(大阪大学A)	-	途中棄権
③	伏見(品川リフレクトリーズA)	1	8'03"86
④	芦田(同志社大学B)	2	8'06"43
⑤	井元(同志社大学D)	3	8'21"22

まず結果として準決勝の2位に残れたのは成長したと感じました。準決勝では1着に1300mくらいまで半艇身だったので、最後の追い上げでしっかり抜くことができる体力をつけていきたいと感じました。(芦田 一郎)

スタートのレートとオール1枚の精度を高め、最初の500mで他選手の前に出ることがとても重要だった。

コンスタントではレートよりも一本の強度が必要だった。(井元 祐一)



M1x D  
井元 祐一(経2・観音寺第一)



M1x B  
芦田 一郎(法3・同志社)

第45回  
全日本  
大学選手権大会

2018年 9月6日~9日  
於:戸田ボートコース

M8+A

- C:山口 弘人(商3・藤島)
- S:石田 大知(商4・明星)
- 7:中村 魁(法3・洲本)
- 6:藤原 嵩(法3・同志社)
- 5:櫻間 達也(法4・京都産業大学付属)
- 4:田川 凌大(政3・六甲アイランド)
- 3:澤 駿太(経4・東大津)
- 2:原田 遥大(理工4・清教学園)
- B:大谷 鋭周(文3・函館ラ・サール)

レースNo.184 順位決定(10:02発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
1			
②	明治大学	1	5'57"47
③	同志社大学	3(総合7位)	6'00"43
④	東北大学	4	6'04"16
⑤	早稲田大学	2	5'59"36

最終目標であった全日本大学選手権は7位で幕を閉じた。準決勝、順位決定ともに、拮抗してレース展開になると考えていたため500mまで少しでも先行することを第一としていた。準決勝では500mで日大と一橋大に先行された。それでも500m以降にA決勝に上がれる2着を一橋と争う展開まで持ち込んだ。第2Qではスパートをかけて後半優位に進めようとしたが、それでも一橋からリードを奪うことはできなかった。課題であった1000~1500mでも差を縮めたが、ずっとシート分出られたら並び、また1シート分出られるという切迫したレース展開であった。結果として0.5秒届かなかったタイムで見ると、課題の3Qでの落ちも少なく、出せる力はほぼ100%出し切れたのではないかと思う。

たとえ決勝に上がったとしても、準優勝に輝いた一橋のような動きはできなかったことを考えると、4日間戦い抜くフィジカルも必要だと思ふ。全日本まで残り約1ヵ月。この0.5秒を埋めるために第1Qでのトップスビートの維持、そして第4Qでの最後の粘りなど、まだまだ改善する部分が多い。できることをすべて行い、今シーズンのすべてをかけた全日本に臨みたい。(石田 大知)

レースNo.72 準決勝3組(8:50発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
4			
①	土山(円山川城崎RC)	4	8'21"77
②	竹内(同志社大学A)	3	8'19"38
③	野口(広島大学)	1	8'00"06
④	櫻井(神戸大学)	2	8'14"07
⑤	谷上(清風高校B)	5	8'26"31

2週間前にシングルでの関西出場が決まり、籠重さん、能勢さん、コーチ陣の方の力をお借りし、毎モーション目的意識を持ちながら漕いできました。結果は予選2位通過、準決勝進出、準決勝3位でした。初のシングルでのレースで準決勝進出できたことは自分の中で少し自信になりました。ただ、スタートが予選、準決勝ともうまく決まらなかったこと、蛇行による無駄な距離の漕ぎ、コンスタントレートが30を下回り重いリズムになってしまったことなど課題は山積みです。今回関西選でシングルに乗れた経験を生かし、さらなる高みを目指します。(竹内 努)



M1x A  
竹内 努(スポ健2・松本第一)

レースNo.127 準決勝B組(9:24発艇)  
1艇上がり(1位→A決勝、2位→B決勝)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	玉田(仙台大学)	2	8'44"98
③	坂井(日本体育大学)	1	8'25"39
④	西田(同志社大学)	3	8'52"53
⑤	佐藤(富山国際大学)	4	9'03"10

高いレートと後半の水中が持ち味であり、0~500mの飛び出しとコンスタントのリズムが課題のクルーであった。予選では1000mまでに大差をつけられ、翌日に向けた課題を考えながら漕ぎ終えた。2日目の敗者復活戦では0~500mは飛び出せなかったものの、大きく離されることなく800mで他艇を捉え、差をつけ続けたまま楽に漕ぎ切ることができた。しかし準決勝では苦手の強風に煽られ、自分の漕ぎがでないままのレースとなった。キヤッチからの加速が両弦できていれば順位決定も可能だったと思うので、非常に悔しいラストレースとなった。(西田樹乃)



レースNo.182 順位決定(9:42発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	東京大学	3	6'37"88
③	大阪市立大学	2	6'35"93
④	同志社大学	1(総合5位)	6'33"63
⑤	大阪工業大学	4	6'44"82

戸田への遠征が始まった初期は、水の重さの違いや艇の変更によるピッチングの変化に対応が遅れ、崩しながらの漕ぎが多くなってしまった。しかし日数を重ねるごとに自分たちの漕ぎを取り戻し、準決勝・順位決定戦では瀬田以上にフォワードでの艇の伸びはし、前からの運びなどを全員で感じ取り、決勝には行けなかったとはいえ、タイム6:33・3で40艇中5位という成果を成し遂げ、関西選手権からの成長を実感した。強くなれた鍵は全員が持つパワーに加え、一人ひとりの意識の高さが挙げられると思われる。(藤本亮)



第96回  
**全日本選手権大会**  
2018年 10月25日~28日  
於：戸田ボートコース

レースNo.193 決勝(13:40発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	龍谷大学	3	6'23"86
③	明治大学	4	6'27"25
④	仙台大学	1	6'21"39
⑤	同志社大学	2	6'21"47

インカレ優勝を掲げて自分たちなりに考えて練習してきました。関西選手権以降、大きな変化はないものの地道に少しずつレベルアップしてきました。決勝では今までで一番のレースができましたが、優勝まで一歩届かなかったのは甘さが出たと思います。この結果にはクルーの誰ひとりとして満足していません。あと0.08秒、この差を埋められるよう生活、練習ともに見直して必ず日本一になります。最後になりましたが応援ありがとうございました。(安藤優作)



レースNo.132 決勝A組(13:50発艇)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	同志社大学	4	6'45"22
③	日本大学	1	6'29"83
④	仙台大学	2	6'30"37
⑤	日本体育大学	3	6'37"32

まず、OB・OGをはじめ、保護者の皆さま方への声援ありがとうございました。インカレのリベンジを掲げ挑みましたが4位に終わりました。予選から準備不足にはじまり敗者復活に終わったことや、瀬田でのコンディションの整え方から詰めていく必要があります。A決勝に進むことができたことを前向きに捉え、胸を張って瀬田に帰りたいと思います。(安藤優作)



S:小島 佑太(商1・熊本学園大学付属)  
3:西村 雅親(社1・膳所)  
2:清水 諒(商3・宇部)  
B:安藤 優作(経済3・城南)

レースNo.143 準決勝D組(11:50発艇)  
1艇上がり(1位→A決勝、2位→B決勝)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	立命館大学	1	7'00"26
③	九州大学	2	7'02"72
④	同志社大学	4	7'31"77
⑤	立教大学	3	7'08"14

まず予選。0~1000mでリズムを作り切れなかったのが問題だったが、気持ちを切り上げていたので、リズムを立て直し、スタートで出られた慶應大を抜くことができた。1位通過。予選タイム全体8位。次に準決勝。横向きかつ逆風のコンディション。予選タイムが僅差のクルーが揃ったレース。ここが正念場と意気込んでスタートしたが、出だしは良かったものの、500m地点経過後4枚のオールが乱れだし、他艇に追いつけずそのままゴール。総括として、予選で好成績を出したのに、準決勝でポテンシャルを出し切れず終わったことが悔やまれた試合であった。(山本幸之介)



レースNo.137 準決勝B組(11:02発艇)  
1艇上がり(1位→A決勝、2位→B決勝)

レーン	クルー	着順	2000mタイム
②	龍谷大学	3	8'11"26
③	明治大学	1	7'45"81
④	熊本大学	2	7'52"65
⑤	同志社大学	4	8'16"05

予選で龍谷大学に5秒差で敗れ、準決でも龍谷と当たったがタイム差を縮めることができなかった。瀬田で練習を始めて、漕ぎが揃わないまま戸田入りしたが、戸田での練習で2人の漕ぎが合ってきたという感覚があった。2週間余りという短い練習期間で、他大学との差を把握できないまま試合を迎えたが、準決まで残れたこと、それから初めての戸田で漕ぐことができて、新たな課題を見つけることができた。(谷美緒)



2019年度

# ボート部 練習計画



主将  
藤原 嵩

## はじめに

今年度の目標は、全日本大学選手権において対校エイト含む複数クルー優勝、全クルー最終日進出である。9月に行われる全日本大学選手権からは逆算し、練習計画を立てるに際し最も重視したのは、体力面の土台を築きあげた上で、頭を使いながらトレーニングするという点である。また、昨年同様、全日本大学選手権へ向け練習強度の波を設け、フィジカル面においてピークの状態を挑み、必ず目標である日本一を達成し完遂する。

## Rowing

昨シーズン築いた統一された漕法を根底とし、無駄を削ぎ落とし、いかに艇を滑らせ2000m先にトップポールを運ぶかを考え漕法を発展させていく。目標を完遂するためには戸田の常勝チームを上回る体力、パワー、その体力を水上で発揮する乗艇技術の2つが必要となる。

初心者集団が戸田の経験者勢を打ち破るためには、戸田勢にボート競技の土台である体力値で劣るわけにはいかない。そのための施策は「Ergo、Strength」において後述する。

体力という土台を水上で120%生かすために必要なのは乗艇技術である。去年統一された漕ぎを浸透させ、発展させるための新たな取り組みとして以下の2つの例が挙げられる。

と技術面の2つの面を徹底的に鍛え上げ、昨シーズン果たせなかった日本一を達成する。

## Ergo

Strengthメニューと併用し、平日午後モーニング3回のうち1回、エルゴを用いたトレーニングを行う。全日本大学選手権までに、全員のエルゴスコアを伸ばす必要がある。そのため前年度と同様CP系、解糖系、酸化系からなるATP(筋肉を動かす時のエネルギー、アデノシン三リン酸を生成するミトコンドリア量を増やすための500m x 9本や、全身に酸素を運ぶ毛細血管の表面積拡大のための4500mなど)に取り組み、乗艇技術向上させるために陸上でエルゴを使用し、フォームチェックやドリルに取り組んでいるが、今年度から同志社大学ボート部のPROBROWNINGのエルゴを4台導入し、より水上の動きと近い感覚で陸上での乗艇技術の向上を図る。

エルゴやランの記録をサポート陣が記録管理し、ランニング付けすることにより記録を可視化し、部内での自分の位置を全員確認することができ。その結果、より高い順位を目指し、部内競争が活発になっている。

## Strength

岩井コーチ、堀田コーチの指導の下、コーチ陣・トレーナー陣と連携を図り、練習意図や適切なフォームを徹底するだけでなく、充実した練習内容を求めて日々試行錯誤している。今シーズンからエルゴを除く平日モーニング2回を上半身メニュー、下半身メニューに分け取り組んでいる。上半身と下半身を分けることによって身体的にもモチベーション的にも追い込みやすくなり、練習の質向上を狙うと同時に、人数に対してのトレーニングスペースの不足を緩和する。また、漕手自身が陸上トレーニングの意図、乗艇のどの動作に繋がるか考え、今まであまり頭を使っていなかった陸上トレーニングにおいても、メニューの意図を考へることにより練習の質向上を図り、乗艇動作へのより密となる結びつけを目指す。

## Nutrition

強靱な体を作り上げるには、上記のような厳しいトレーニングをするだけでなく、体を作り上げる栄養が必要不可欠である。そのため今シーズンも同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科の片井先生にご協力いただき、栄養価の高い食事をとることでボート選手の資本である体を強靱なものへと近づける。具体的には、筋肉量や脂肪量など体の組成を分析するDPO測定に加え、練習中、睡眠中に出ていく水分を計測する水分調査、全部員対象の食に対する意識レベル別の集団栄養教育や、漕手ひとりずつのような食事をすればよい個別にアドバイスしていただく個人栄養教育などを行っている。

また月に一度、マネージャーが片井先生とミーティングを行うことで栄養に関する知識を深めている。ここで得た知識をマネージャーのみならず部全体に共有することでチームとして栄養への意識を高めている。

新歓隊長の視点から見た

# 同志社大学 ボート部

「部員130人」

当部史上最も多い部員数だ。この数字は、ここ数年毎年更新している。

「全日本大学選手権団体総合ランキング7位」  
当部の最近の成績の中ではこれも最高の順位だ。この数字も、更新を続けている。

同志社大学体育会ボート部は確実に力を付けてきている。当部は日本ボート界ではトップクラスの組織規模であるし、成績を見ても、全国の高校から引き抜かれた経験者集団の構成する超強豪校が群めくところに位置している。その理由は、体力値の向上も技術力の上昇ももちろんあるが、根底には「部員数の拡大」があるということだ。白だろ。

漕手の数が多いと、学年の垣根を越えて自然とたくさんライバルができる。日々のエルゴメニューでは、コンマ数秒の差を同程度の体力値を持つライバルと争い、乗艇でも、ライバルよりも上手くなり、良いクルーに乗って試合で勝ちたいという思いや目標が自ずとワンストロークの集中力を高める。このような競争心は普段から目に見えるようなものでなくても、無意識のうちに漕手の体力や技術の向上に繋がりを、さらには同志社の強さを引き上げている。

しかし、ふと未来について考えた時、果たして「同志社はこの先、この勢のまま名だたる強豪



高本 正之甫  
法学部法律学科  
私立高槻高等学校出身

校を打ち負かしていき、日本一になる」と素直に思えるだろうか。私は思えない。戸田の経験者集団との間には、やはり、結果以上に大きな差がある。それはインカレをはじめとする全日本級の大会を経験したオアズマンなら誰もが実感していることだろう。エルゴ値が優っていたとしても、順位がひとつしか変わらなくても、そのタイム差がコンマ数秒だとしても、その差は目に見えるものよりも大きい。それは単純な体力や技術といったものよりもっと抽象的で曖昧な、感覚や経験のようなものなのかもしれない。

我々のいる位置が素人の来られる限界なのか、結局、素人集団では経験者に勝てないのか。見えない天井を破れずにいつまでも経験者たちに見下ろされたままなのか。その差を埋めるために我々ができることは何だろうか。答えは一朝一夕では見つかからないだろう。

しかし、その答えは必ずあるはずだ。我々は「数」という大きな武器を持っているし、怖いもの知らずの勢いもある。これをどう生かすか。どう艇速に繋げるか。

昨シーズンは大きく飛躍した。しかし、まだ日本一にはなれていない。現状に甘んじてはダメだ。同志社大学にはまだ革新の必要がある。

「Superior」をどうやって体現するか。我々の挑戦は続く。



# がんばれ、同志社大学!

共に運びます!  
個性と絆を・・・  
最高の熱量をもったあの場所へ

—信頼と実績の輸送—  
**広栄運輸株式会社**

〒664-0006 兵庫県伊丹市鴻池 4-3-3

【お問い合わせ】  
TEL : 072-779-7008 (代表)  
FAX : 072-779-7117  
Mail : kawamoto@koueiunyu.com  
URL : http://www.koueiunyu.com/



# 艇友会 インタビュー interview



## 艇速をつけるにはどうするか、 もっともっと、研究を。

昭和46年卒 **宮川 滋** 先輩

「ボートを始めたときつかけを教えてください。」

**宮川先輩** 中学生の時にNHKのテレビ放送を父親と見たときに、父親が、自分の友人がボートの選手で、時々応援に行ったことがあると話していたことがあり、少し興味を持ちました。その後、入学した高校に偶然ボート部があり、入部しました。先輩も少なく、見よう見まねで他チームを見ての自己流漕法でしたが、自分たちでメニューを決め、特に厳しい陸上トレーニングを行い、2年生で大分インターハイ、3年生で岐阜国体に出場しました。経験がなくても、練習次第で大きな試合に出られると感じました。

「現役当時にやりがいを感じたことや嬉しかったことを教えてください。」

**宮川先輩** 嬉しかったことは、もちろん2回生で対校のメンバーに選ばれ、オリンピックに出場できたことではありますが、当時はオリンピックより打倒・関東の気持ちが強かったですから、全日本選手権で前々年度3位前年度2位と先輩方が築き上げた成績を越え、優勝できたことがとても嬉しかったです。

1回生のころは、上回生についていくだけで精一杯でしたが、今と違い対校とジュニアクルーしかなく、乗艇練習で対校と並べて勝ったときはクルー全員の自信に繋がりました。

シーズンオフに取り組んだウエイト、サーキット練習により効果として持久力、瞬発力が生かせる漕ぎができるようになりました。

「それでは反対に苦労したことや苦勞し

たことを教えてください。」

**宮川先輩** 高校時代はナックルで練習がシエール艇に変わり、変化についていけず1回生で2度腹を切り、水中にドボンすることがあり、スピード感覚に慣れるのに苦勞しました。

また、就職してからの話ですが、就職先の先輩から声をかけていただき、モントリオールオリンピック強化合宿に参加しました。当時私は26歳で、会社のクラブを引退し何も運動していない状態で、その上、メンバーが19歳、22歳の現役選手でした。合宿中はボート漕ぎの生活で、朝練習をして、午前中は会社で仕事、午後練習、土日は3回生、また春休みも夏休みも3回生だったもので、20代前半で合宿に参加している選手との体力差、特に持久力には自信が持てない状況で選考に残ることができるとか辛く精神的にも苦痛の時期でした。それでも結果的にオリンピック選手に選ばれました。苦勞した時期です。

「スランプに陥ったとき、どのように乗り越えましたか？」

**宮川先輩** 自分ではできていると思っっているのに、先輩や同期から注意を受けたとき、すぐには理解できず、とても悩みました。この悩みを解決するには、一本一本自分で考えながら練習し、克服するしかなかったです。注意されたことは意識して取り組まないとならないと思います。それでも今でも、注意されることはあります。漕ぎは簡単に進歩しないからね。

「今でもボートを漕ぎ続けるのはなぜですか？」

「勝つためにはどうすればよいでしょう？」

**宮川先輩** 現役部員が今やっている陸上トレーニングは、自分たちのときのものとは比べ物にならないくらいハードだと聞いています。だからもっと伸びるはず。あとは、関東の大学ともしっかり一緒に漕げる機会があれば、と思います。

OBとしては勝ってほしい。あとは私たちが

です。

ですか？

**宮川先輩** 練習自体はしんどいですが、楽しいからではないでしょうか。またレースで勝った時の満足感が忘れられないですね。今、40代・50代・60代の女性クラブに参加して一緒に練習し、指導もしていますが、勝ったら喜び、負けたら次はもっと頑張ろうと練習しています。教える立場にいて、メンバーがレースで勝ったら嬉しいし、楽しい。勝つ喜びを忘れられないから今も続けています。

「ボートをする上で大切だと思っことは何

**宮川先輩** 1モーションの乗艇練習メニューを進める中でセット数をこなす練習ではなく、最初から力を出し切る練習を重ねることで、当初数セットしかできなかったことが最後までこなせるようになり、スタミナ・パワーがついていくと思います。

練習においてはメンバー内の厳しい競争です。上回生を追い抜く、また同期・下級生の中ではトップを取る気持ちを持ってほしい

OBとしては勝ってほしい。あとは私たちが

勝てるよ。がんばれ。

## きつい練習と学業の両立。 4年間、やり通してほしい。

昭和58年卒 **貝賀 俊之** 先輩

「ボート部に入ったきっかけは何でしたか？」

**貝賀先輩** 高校時代は野球をやっていたのですが、野球部の同期のひとりが他の大学のボート部に入部したことがきっかけでした。大学で何をしようか考えたとき、同好会は物足りない、新しい違うスポーツをやってみない、ボートなら高校の時にやっていた人はいないだろう...と考えて入部を決意しました。

ボート部に入部することは決めていたので、今出川キャンパスでやっていた春の新人勧誘はすべて無視して、自分からボート部に電話をかけて入部しました。

「ボート部での生活はどうでしたか？」

**貝賀先輩** 最初のころは昼休みに御所で走って、週末だけ瀬田で乗艇するという練習でし

「合宿所で生活を送るというボート部ならではの思い出はありますか？」

たが、しばらくして先輩方はずっと合宿していることを知って、大変な部に入ったなあという気持ちでした。工学部だったので実験レポートが多く、学業との両立が大変でした。また、3回生からマネージャーをしていたので毎日の食事のメニューを考えるのも大変でした。食事は見た目よりも、限られた予算で漕手のお腹を満たすことを考えていました。

「忘れられないレースなどはありますか？」

**貝賀先輩** 当時はエイトのみでしたので、対校やジュニアではなかった私は、現役時代は大きなレースに出ることはあまりなかったのですが、ボート部引退後に先輩と同期が集まって国体に出ました。京都の国体予選で優勝して京都代表で島根国体に参加できました。あと、これは社会人になってからですが、ボートをまったく漕いだことのない会社の同期を集めて、社会人の一般の試合に出たりし



Lumiere

AEHANDKERCHIEF CO., LTD. tel:0795-48-2031 http://www.lumiere.jp



ていました。会社対抗のレガッタが戸田であり、学生時代には漕げなかった戸田で初めてボートを漕げたのは感無量でした。

「マネージャーになった時のお話をお聞かせください。」

**貝賀先輩** 当時は最初からマネージャーとして

て入部するのではなく、漕手が途中からマネージャーになるという形でした。先輩からマネージャーになってくれないかと頼まれたときは、ボートを漕ぎたくて入部したので、漕手としての未練はありませんが、マネージャーとしてボート部に貢献しようと考えるとマネージャーになりました。主務や学連などの役割がありましたが、私は確か会計だった

と思います。そのほか、食事を作ることや、練習でコーチを乗せてモーターボートを操縦するなど、練習のサポートも担当していました。

「ボート部の経験が役立ったことはありますか？」

**貝賀先輩** とても役立っています。まず体力

面です。社会人になりたての新人社員のところ

は走る研修が本当にたくさんあったのですが、

他の人よりは楽にこなせましたし、仕事も

ハードでしたがへたばることはなかった。また

ボート部でないときなかつた経験や先輩、

同期、後輩との付き合い、自分なりに精一杯やり

り切った4年間は、普段は意識していません

が、自分の中で大きな自信になっていると感じ

ます。

「漕ぎ手としてもマネージャーとしても活動

動していた貝賀先輩だからその視点から

マネージャーはどのような存在であるべきだ

と思われませんか？」

**貝賀先輩** 同志社のボート部は、単にボート

が漕げれば良いというのではなく、レースに

勝つこと、優勝を目標にやっています。私も、

練習が厳しくても、自分でボートを漕いで

レースに勝ちたいと思って入部しました。だ

からこそ、マネージャーの役割を引き受けた

からは、漕手がレースに勝てるようマネー

ジャーとして努力する必要があります。マネー

ジャーは漕ぐことはできませんが、漕手

がよい成績を上げることができるよう、自分

に何ができるかを考えて実行することが大切

だと思います。当時の先輩から「漕手をもっと

本気にさせるには、お前が漕手に対してもっ

と厳しくなれ」と何度か言われたことがあり

ました。当時は、毎日厳しい練習に取り組んで

いる漕手に対して、もっと頑張れときつと言

うことはできませんでした。現在は、最初から

マネージャーとして入部されているとのこと

ですので昔と少し違いかもかもしれませんが、食

事の準備から学連、広報、会計などの部の運営

に加えて、漕手の精神面・モチベーション

アップ面でも貢献できれば素晴らしいと思い

ます。

「ボートをする上で一番大切だと思うこと

は何ですか？」

**貝賀先輩** ボートという競技は特殊なスポーツ

です。他のチーム競技以上にチームがひとつ

になる必要があります。誰かひとりが頑張っ

ても勝つことはできません。全員が同じ動き、

同じ力、同じ頑張りをする必要があります。

ボートの技術だけでなくそんな雰囲気を作

っていくことが大切だと思います。だから

こそ合宿生活を送り、ボートを漕いでいると

き以外も一緒に過ごしていくことで良い雰囲

気を作っていくことができ勝利につながって

いくのだと思います。

「最後に現役部員にひと言お願いします。」

**貝賀先輩** 4年間やめなれないこと。きつい練習

と学業との両立など、しんどいことは多いと思

います。それでも最後までボート部の部員とし

てやり通してほしいです。途中でやめてしまっ

と学生時代を振り返った時に頑張った、やり

きったと思えないのではないのでしょうか。4年

間やり通すことで大きな自信になります。頑

張って最後までやり通してください。



## 櫻間 達也

TATSUYA SAKURAMA

法学部法律学科  
私立京都産業大学附属高等学校出身

まずは、ここまで応援して下さい。家族、監督、コーチ、OB・OGなどの方々にお礼の言葉を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

僕は、「この大学4年間は人生で一番充実した時間でした」と最後に言うために、自分なりに努力しようと入部した時に決めていました。

ここまで恵まれた環境と自由な時間があることは、今後の人生ではもうないだろうし、それなら後悔が残らないように、結果に貪欲に、一生懸命やってやろうと考えたからです。それに、今まで生きてきて20年ちょっとしかありませんが、そこまで人に胸を張れるほど、やり切れた物事がなかったのも理由のひとつです。

結果的には、U23日本代表にも選ばれましたし、127代目の同期たちと最後のシーズンを闘いきれたので、大学生活での目標は叶ったのかなと思います。

次は、社会人で2020年の東京オリンピックという目標が待っています。

「東京オリンピック日本代表の櫻間です」と言えるように、引き続きボート競技を極めていきたいと思っています。

4年間、本当にありがとうございました。



## 大谷 文則

FUMINORI OHTANI

スポーツ健康科学部  
スポーツ健康科学科  
私立芝学園高等学校出身

はじめに、ボート部での生活に関わったすべての方々に感謝の言葉を口にしたいです。今まで本当にありがとうございました。ボート部として活動できたこと、そして何より人として大きくなったということに関して感謝の気持ちでいっぱいです。

私は大学に入るまでは体育会の部活に入るとは考えてもいませんでした。試乗会で先輩方のボートに対する熱い気持ちを聞いて、大学生活をこの部活に捧げよう決めました。

ボート部では悔しい思いもうれしい思いもたくさんありました。辛く厳しい思い出も多いですが、その分、楽しい思い出もたくさんあります。本当に同志社大学ボート部に入部して良かったと思っています。

同志社大学ボート部は今では100名を超えるととても大きな部活になり、成績も徐々に上がり、他大学からも注目される存在になっています。私自身はたいした成績を残すことができませんでしたが、このような成長過程に自分自身がいたことをとても嬉しく思います。

これからも同志社大学ボート部が活躍することを祈っています。



## 原田 遥大

NOBUHIRO HARADA

理工学部エネルギー機械工学科  
私立清教学園高等学校出身

ボート部での生活は、これまでの僕の人生の中でとても濃いものでした。朝早くから漕いで、大学で授業を受け、帰ってからエルゴを漕いで、寝る。とにかく辛い4年間でした。

どうして僕は大学生活の中でボート部、さらには体育会を選んだのかと考えることがあります。僕の中での答えはスポーツには「感動」があるからだと思います。「感動」とは、思いが動くことです。だから、友達と遊んだりしても、景色を見て、怒られてもすべて「感動」があると思います。けれど、例に挙げたことは自分だけの「感動」のみなのです。スポーツを通して生まれる「感動」は自分もそうなのですが、応援してくれる人たちにも「感動」を与えることができる。ノンフィクションだからこそ生まれる「感動」に知らず知らずのうちに魅かれているのだと思います。

なので、僕は体育会を選び、より大きな「感動」を与えてくるボート部を選んだのだと思います。そんな「感動」を与えてくれたボート部に入れたことを誇りに思います。

最後になりましたが、4年間支援していただいたOB・OG様、共に練習を乗り越え4年間やりきった同期・後輩・監督・コーチに感謝を申し上げます。



## 岡本 晃壽

AKIHISA OKAMOTO

法学部法律学科  
私立同志社高等学校出身

4年間のボート部生活を終え、今はゆっくりとした学生生活を送りながらこの文章を書いています。

ボート部生活を思い返してみると、早起きや極寒・灼熱の中での練習など、食事から睡眠まで、すべてがボート中心の生活でした。今、そのような生活から離れ、懐かしさも寂しくも感じますが、もう二度とあの生活はしたくありません。少なくともしばらくはしたくありません。それほどに辛く、充実し、やりきった4年間でした。

辛くとも続けることができたのは、先輩方が引っ張って下さったおかげ、同期の支え・頑張る姿、後輩たちがいてくれたおかげだと思います。

そして、ボートが好き、同志社大学ボート部が好きという気持ちがあったからだと思います。それだけに、結果を残せなかったことは本当に悔しいです。

現役の皆さんは、最後に悔しい思いをしないよう、もし負けてもやりきったと思えるよう精一杯頑張ってください。これからは、ボートファン、同志社大学ボート部のファンとして支援・応援していきます。

最後になりましたが、この4年間私に関わったすべての人々に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



## 藤原 駿也

SHUNYA FUJIWARA

経済学部経済学科  
私立開明高等学校出身

この立場になって、この場に言葉を残すことになるとう入部当初は考えもしませんでした。長かった練習や濃いボート部生活も、毎年卒業された先輩方が仰っていたように、終わってみれば一瞬で、やはりボートと言う競技を極めるには3年半という時間は短すぎるのかもしれない。

楽しかった合宿所生活や他にも印象に残る思い出はありますが、あと1年、あるいは2年多くボートを漕げたなら、どれくらいの選手になれたのだろうという思いが今でも考え浮かびます。

日本一になると決めて入部した以上、それを達成できないなら、どのような過程を踏んでいても後悔の気持ちは残るんだと思います。

普段、毎日のように苦しくクソしんどいことをして見失うかもしれませんが、それだけでは誰も認めてくれません。自分の、そしてチームの存在意義をボート界で認めてもらえるための努力を3年半続けてほしいと思います。

残された時間を本当に大切に、泥臭く、情熱と信念を持って練習に取り組んでください。応援しています。

ありがとうございました。



## 石田 大知

DAICHI ISHIDA

商学部商学科  
私立明星高等学校出身

「究極の団体競技で日本一を目指そう」と先輩に勧誘されてから引退まで、思い返せば一瞬の出来事でした。

同志社大学ボート部というのは未経験者ばかりのチームにも関わらず、周りを見れば歯を食いしばって死にそうになりながらも必死に必死に毎日努力している人たちがばかりでした。なにが皆を、自分を、奮い立たせているのか。答えはシンプルです、勝利に飢えているだけです。

もう変革期は終わりですね。僕らの代でなんとか形はできた気がします。ここからさらに、一步、二歩と、勝利に飢えた後輩たちは必ずレベルアップしてくれると信じています。

日本一、見せてください。

最後になりましたが、「勝ちたい」という想いを全員が持って、1日1日を真剣に生きているボート部の仲間がいたからこそ、充実した4年間を過ごせました。

どぎついボート部での生活が、自分の人生の中のキラキラした思い出になっているのは、関わってくださったすべての人たちのおかげです。後輩、先輩、指導陣、家族、同期、本当にありがとうございました。

最後の青春、最高でした。



## 籠重 航

WATARU KAGOSHIGE

法学部法律学科  
私立同志社国際高等学校出身

ボート部でここまで充実した大学生活が送れるとは思っていませんでした。多くの人と出会い、支えてもらうことで充実したものになったのだと痛感しております。家族はもちろんのこと、OB・OG、監督・コーチ陣、"近所"の方、お世話になった先輩や後輩、あげればきりはありませんが、皆さまには本当に感謝の言葉しかありません。頼りなく、優秀とは言えない私のことを、温かく見守り支えて下さった人々の存在が今の私を形成していると思うと、自分はなんて幸せだったのだろうと思います。特に最後の年は周りの方々の思いや叱咤激励が私の原動力となっていました。

日本一を成し得なかったのは本当に悔しく、もっと漕手やチームのために何かできたのではないかと思わずにはいられません。後輩たちよ、是非とも貪欲に上を目指してください。練習は辛く、意識し続けるのは難しいでしょう。しかし、引退してしまうと後悔しかできません。今しかできません。満足できるようにやりきってください。

最後に同期のみんな、3年半ありがとう。一緒に日本一を目指すことができ本当に楽しかった。とても心地よく充実した時間をありがとう。

みなさん、お達者で。



## 久保 剛

TSUYOSHI KUBO

法学部法律学科  
私立同志社香里高等学校出身

1回生の頃、新歓で家族のような温かい雰囲気と、先輩方の真剣にボートと向き合っている姿に憧れてボート部に入部しました。入部すると、考えていた以上に練習がしんどく、4年間続けられるのか心配でしたが、同じデブ三銃士の原田が必死に練習をしている姿から頑張ろうと思えました。他の同期にも私のようにライバルのような存在がいて、全員で努力しあえていた代だったのではないかと思います。支えあうことで本気の努力の度合いは自分の中で大きく成長しました。高校までは与えられたことをすべてやることを頑張ったと思っていましたが、ボート部では当然のこと。プラスアルファで生活、練習面を磨いていく必要がありました。日々の研鑽が当たり前になっていき、自分の中で努力という言葉の重みが増した4年間でした。また、本気で同じ目標に取り組む仲間だからこそ同期との絆は本当に深く強いです。

ボート部の4年間は多くの時間を失いましたが、それ以上に価値のある成長や仲間を得られたと思っています。

こんな素晴らしい生活を手助けしてくれた両親や同期、先輩方、後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい学生生活をありがとうございました。



## 齋藤 暢子

NOBUKO SAITOH

商学部商学科  
秋田県立本荘高等学校出身

11月に行われた総会で、正式に同志社大学ボート部OGとなり、改めて現役部員を引退したことを実感しました。

この機会に4年間の学生生活を振り返ってみると、根性も体力も技術もない私にとっては毎日が苦行で、常にもがき続けていた一方、艇とクルーの息が合って艇が走る喜びを常に求めていたように思いました。また、選手成績を振り返ると、最後の最後まで大きな成績を残せず、櫻間がインカレで優勝する姿や同期が勝利する姿ばかりを見ていたように思いました。それでもボート部で過ごした4年間は苦しくも楽しく、かけがえのない充実した日々であったと感じます。

今後の人生では、ボート競技と関わることはほぼないに等しいですが、この4年間で出会ったコーチやOB・OGの方々、同期や後輩たちのご縁、この4年間で経験した葛藤や感情を大切にしていきたいと思えます。

最後に感謝の気持ちを述べさせていただきます。4年間の途中で出会い、支えてくださったコーチの方々、OB・OGの先輩方、そして同期と後輩の皆さま、今までありがとうございました。そしてOGとして今後の同志社大学ボート部の活躍に期待し、同期として櫻間の今後の活躍を祈っています。



## 西田 樹乃

MIKINO NISHIDA

社会学部メディア学科  
東京都立戸山高等学校出身

大学の友人が寝始める時間に起床し、彼らが起きるころには朝食が済んでいる。これだけ頑張っているのに遊ぶ余裕もない。「あんな生活よくやってたな」と自分でも思う。しかし、引退し、鍛えた筋肉も、あれだけ恥ずかしかった手のマメもなくなった今思うことは、「続けてよかった」そのみだ。「若いころに流した汗は、歳をとって涙となって返ってくる」。私が1年生の時、先輩に言われた言葉だ。この言葉が正しいのかは未だ分からないが、確実に言えることは、私たちは誰よりも汗と、そして涙を流したということだ。先輩には敬意を、同期には感謝を、後輩には激励を送りたいと思う。

そして最後に、こうした日々の活動と学びは応援してくださるたくさんの方々のご厚意に支えられていました。この場を借りて、皆さまに感謝申し上げたいと思えます。ありがとうございました。これからは新社会人として社会と、ここ同志社ボート部に還元できるよう精進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



## 高野 敦

ATSUSHI TAKANO

文学部国文学科  
兵庫県立神戸甲北高校出身

本気でボート部を辞めようとした2回生の春が、私の人生の分岐点であったと思います。引退後の生活の墮落ぶりから推測するに、2回生の春に部活を辞めていたら、残りの大学生活はとんでもないことになっていただろうと思います。あの時、続ける選択を選んで良かったと心の底から思います。必死に止めてくれた同期や先輩、コーチの方々には本当に感謝しています。

ボート部に入部してから、時間や目の輝き、若さなど、失ったものは多くありましたが、4年間続けてきた誇り、精神力、苦難を共にしてきた仲間など、多くの財産を得ることができました。引退してから振り返ってみると、ボート部での生活がいかに密度濃く、充実した日々だったかを痛感します。こんな私でもそう思うのだから、現役部員たちにはボート部としての活動に自信を持ち、是非4年間続けて欲しいと思います。

最後になりましたが、監督、コーチ、OB・OG、後輩、同期、そして家族、皆さまのおかげで4年間ボートに取り組むことができ、人間として成長することができました。それらの支えてくださったすべての方々に感謝を申し上げたいと思います。

4年間ありがとうございました。



## 澤 駿太

SHUNTA SAWA

経済学部経済学科  
滋賀県立東大津高等学校出身

この4年を振り返ってみると、多くの数秒差で負けた試合が記憶に残っています。1回生では集大成である加古川レガッタでは1秒差で優勝を逃し、2回生の2nd4+で挑んだインカレが2秒差で予選敗退。3回生でのインカレ準決勝4-で蛇行し、A決勝を逃し、また順位決定戦も1秒差で7位になりました。迎えた最終学年のインカレ、準決勝で8+歴代最速タイムを出すものの0.5秒でA決勝を逃しました。

私自身は腰と膝を患っていて「なんとか」練習をしていましたが、その「なんとか」では日本一は獲れないと感じました。おこがましいですが、負けた理由が自分のそこにあるような気がしたので、全日本選手権には出場せず引退しました。その後、全日本選手権の8+のメンバーがインカレの8+なら勝てたと言っていて、失礼ながら嬉しいと感じました。自分がボート部にいた意味はあったのだと感じました。

そして劇的に強度が増した練習、先輩・後輩・同期と過ごした日常生活。終わってみれば懐かしく寂しいものです。後輩たちはあともう少し頑張ってください。

最後になりましたが、応援してくださり支えてくださった方々、また心配してくださった方々、本当にありがとうございました。お世話になりました。



## 山本 瑠依

RUI YAMAMOTO

グローバル地域文化学部  
グローバル地域文化学科  
私立西南学院高等学校出身

1回生のころ、ボート部の先輩方のキラキラとした姿に魅せられ、直感的に入部を決めました。「この先輩方と部活がしたい」という気持ちはいつしか「同期が表彰台にのぼる姿を目に焼き付けたい」という思いに変わっていました。同期の櫻間がインカレで日本一を獲った姿はきっと、一生忘れることはないでしょう。

ボート部で過ごした4年間は毎日が楽しく輝いていたものだったとは冗談でも言えません。マネージャーという役職は自分の頑張りが数字で目に見えるわけではありませんし、それが部の勝利に直結するわけでもありません。さらに、部内には自分とは考え方や価値観が異なる人もいます。彼らとぶつかったり悩み、自分はここにいる価値があるのかとそのたびに考えました。しかしそんな時に悩みを聞き、励ましてくれる人が私の周りには多く居てくれました。おかげでどんなに辛いことがあってもボート部を辞めたいと思ったことは一度もありません。そのような経験や人との繋がりがこそがボート部で得た一番の財産でした。

最後になりましたが、同志社大学ボート部を応援して下さったすべての皆さまに心より感謝致します。これからはOGとして、後輩たちの活躍を見守っていききたいと思います。



## 二神 こころ

KOKORO FUTAGAMI

商学部商学科  
兵庫県立大学附属高等学校出身

「モチベーションって何?」「人のためによく続けられるね」この3年半よく言われた言葉です。正直今でも答えはわかりません。漕手にとって私がどんな存在だったのかも、何を部に残せたのかもわかりません。ただ、人に惹かれて入ったこの部活で、人に恵まれて最後まで過ごせたことは事実であり、本当に感謝しています。

1回生の冬、突然強度が増した練習に弱音やゲロを吐いていた同期が日本一になり、全国で順位をつけました。最初は練習を側で見ていただけで気が病みました。しかし漕手のひたむきな姿、ベストを更新した時の嬉しそうなお姿が私のエネルギーとなり最後まで続けることができました。

【INVICTUS】を掲げた最後の年、不屈の精神のもと前進したものの、8+日本一の夢はまだ叶っていません。しかし私の誇らしい同期の背中を見てきた後輩たちならきっと実現できると信じています。

紆余曲折あると思いますが、後輩達には自分を理解してくれる仲間がいることを忘れず、それぞれが納得のいく充実した3年半を過ごして欲しいと思います。

最後になりましたが、ここまでさまざまな形で支えてくださった監督、コーチ陣およびOB・OGの皆さま、本当にありがとうございました。



## 木村 俊貴

TOSHIKI KIMURA

経済学部経済学科  
私立智辯学園高等学校出身

はじめに、監督、コーチの皆さま、OB・OGの皆さま、お世話になった先輩方、後輩たち、かけがえのない同期、そして温かく見守ってくれた両親など多くの方々を支えられボート部として活動することができました。ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

「とりあえずボート乗ってみいへん?」この一言がすべての始まりでした。先輩に言われるがまま新歓に行き、ボート部の雰囲気、ボートについて熱く語る先輩に惹かれ、直感的にボート部への入部を決めました。

漕いでも思うように進まないボート、コーチから発表される練習メニューに怯える毎日、先を見ると果てしなく感じ、絶望していた1回生の冬を今でも鮮明に覚えています。しかし引退した今、皆と共に乗り越えた厳しい日々は、自分を大きく成長させ、本当に充実していて、幸せだったと感じます。想像していた大学生活とはかけ離れたものとなりましたが、あの時の直感を信じボート部に入部して本当に良かったと心の底から思います。

最後に後輩に「ボート部でいられる時間は意外と短い」ということを伝えたいです。嘘だと思って本気で突っ走っててください。

4年間本当にありがとうございました。



## 末次 真夏

MANATSU SUETSUGU

政策学部政策学科  
私立東福岡高等学校出身

初めてボートに乗り、水面を進むあの感覚に魅せられボート部への入部を決意してから卒部まで、振り返るとこの4年間は本当に一瞬であったような感覚になります。それだけ、ボート部での活動が自分自身にとって非常に濃い時間であったということだと思います。

もちろん、この非常に濃い4年間は決して楽なものではなく、むしろ自分にとっては厳しく悔しい思い出の方が多いのは間違いありません。特にラストシーズンでは朝日レガッタ以降、腰の痛みに悩まされ、練習に参加できない日々が続きました。同期や後輩達が練習するのを横目に何もできない現状に歯がゆさを感じ、そんな自分が嫌になり悔しくて涙を流す時もありました。それでも4年間苦楽を共にし、必死に練習に打ち込む同期の姿に支えられて最後まで選手であり続けることができました。結果的に最後は試合に出ることはできませんでした。それでもこの4年をこのボート部でこの仲間たちと共に過ごせたことを本当に誇りに思っています。

ここまで共に過ごした仲間たち、ご指導して下さった監督、コーチの皆さま、そしてこんな僕をずっと見守ってくれた両親に、感謝の気持ちでいっぱい입니다。

本当にありがとうございました。



# 株式会社 王子製作所

船舶用艀装部品・建設機械部品  
並びに各種製缶加工・一般建築鉄骨施工

本社 兵庫県加古郡播磨町新島23番地  
TEL (0794)37-1600(代)  
FAX (0794)35-6181

丸亀工場 香川県丸亀市垂水町2747番地  
TEL (0877)28-7004  
FAX (0877)28-5162



園 三紗都

MISATO SONO

社会学部教育文化学科  
滋賀県立守山高等学校出身

「いつも笑顔で部員を支えるマネージャーでありたい」。4年間そう思い続けてきました。勝った時も負けた時も、漕手をすぐ傍で支える者として、いつでも前向きでいたい。レースまでに積み重ねた漕手の努力を知っているからこそ、どんなときも笑顔で背中を押せる存在でありたい。その思いが勝利に繋がると信じて、過ごしてきました。

そのような反面、競技者ではないマネージャーが勝ちに貢献できるのか、模索し悩む日々でもありました。笑顔で過ごした時間と同じくらい泣いて悩んだ時間も長かった気がします。仲間とのすれ違いや衝突、あと一步のところまで勝利が掴めない悔しさ、無力な自分に向き合うことは想像以上に苦しいものでした。それでもマネージャーを続け、最後にみんなと笑って引退できたのは、多くの支えがあったからです。ボート部生活を通してお世話になった方々に、厚く御礼申し上げます。改めて、人にも環境にも恵まれた4年間だったと感じています。

最後になりましたが、OB・OGの皆さん、保護者の方々をはじめ、ボート部を支え、いつも心強い味方でいて下さった皆さま、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



亀井 美紀子

MIKIKO KAMEI

社会学部メディア学科  
私立同志社女子高等学校出身

はじめに、OB・OGの皆さま、監督、コーチの皆さま、4年間支えてくださり本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

敬愛する先輩方、かわいい後輩たち、頼れる同期。振り返れば私の周りは素敵な人たちに溢れていました。私がここで頑張りたいと思った瞬間、挫けかけたけれど続ける決意ができた瞬間、悔し涙・嬉し涙が止まらなかった瞬間、その場で立てなくなるほど笑った瞬間、どの瞬間にもその人たちがいました。人に恵まれてさまざまなことを乗り越えてきた、そんな4年だったと思います。マネージャーとしては至らないところばかりでしたが、何か夢になれるものに出会えたこと、最後までやり通せたことは本当に幸せでありたいことだったのだなと引退してから強く感じました。やることは同じだったとしても、周りの環境が違えば感じることも学びとることも違います。単にマネージャーという肩書きではなく、「同志社大学ボート部」のマネージャーであれたことを誇りに思います。

これからは自分たちがしてもらったように、後輩の活躍に期待し、見守っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



大下 瑞季

MIZUKI OHSHITA

文学部国文学科  
石川県立小松高等学校出身

この人たちと一緒にいたい。ボート部に入部したのはそんな直感がきっかけでしたが、間違いなかったとはっきり言えます。

正直、この4年間は悩んだことのほうが多いです。理想のマネージャーとは何か、自分はどんな役割を果たすべきか、ずっと答えを出せずにいました。そんなときに「そのままでもいいんだよ」と声をかけてくれたのが部員たちでした。一人ひとり個性が違うからこそ、たくさん話し合っただけで気づくことができました。ボート部に入っていなかったら、こんなに誰かの頑張る姿に胸を熱くしたり、誰かを支えたいと思ったりすることもなかったと思います。勝ちにこだわる姿勢も仲間を大事にする温かさも、部員が教えてくれたものであり、これから一生持っていたい宝物になりました。支える立場のほうですが、気づけば周りに支えられてばかりでした。ボートを通じて出会ったすべての方々に心から感謝しています。

これからも一人ひとりが輝けるボート部でありますように。後輩たちの活躍を見守りながら、自分自身も成長し続けていきたいと思っています。



竹内 祐希

YUKI TAKEUCHI

社会学部教育文化学科  
私立京都文教高等学校出身

まず、4年間のボート部生活において出会ったすべての方々に深い感謝を申し上げます。

私は、感じる事ができて、それでいて目に見えないものが一番大きな入部理由だったと思います。それをなんと呼ぶのかは、人それぞれだと思います。

先輩方の熱心な勧誘がきっかけで入部したものの、入ってみれば大変なことばかり。今思い返しても、私は自分がマネージャーに向いているなど一度も思ったことなどありません。でもこれだけは言えます。私がマネージャーとして部に奉仕できたこと以上に、自分自身にたくさんのことが還元されているということです。スポーツをしたことはなかったし、それに関することに熱を燃やせるタイプでもない、そんな私にくつつもの挑戦と新しい景色を容赦なく与えてくれました。辛いこと嫌なことばかりが続いて、本当に自分がしたいことは何なのか、ぐるぐる考えて上の空だった時期もありました。それでも先輩、後輩、同期、部活で戦う人々のかっこよさと温かさに常に鼓舞され、この人たちと仲間でありたい、と思い、頑固に自分の選択を誇りに思いつづけることができました。

ボート部での4年間の記憶と得た仲間たちは宝物です。ありがとうございました。



むらかみ しんや  
**村上 真哉 [COX]**

- ① 商学部商学科
- ② 大阪府立四条畷高等学校
- ③ 170cm/60kg
- ④ 部のために自分にできることをやりきる



ふじもと りょう  
**藤本 亮 [COX]**

- ① 政策学部政策学科
- ② 大阪府立桜塚高等学校
- ③ 163cm/55kg
- ④ 日本一以外いらん



やまぐち ひろと  
**山口 弘人 [COX]**

- ① 商学部商学科
- ② 福井県立藤島高等学校
- ③ 163cm/55kg
- ④ 必ずみんな最終日に行く



たけもと さくら  
**竹本 咲良**

- ① 文学部文化史学科
- ② 福岡県立城南高等学校
- ③ 147cm
- ④ できることにすべてを尽くす



うさみ ゆき  
**宇佐見 侑紀**

- ① 文学部国文学科
- ② 大阪府立富田林高等学校
- ③ 158cm
- ④ 集大成。自分に厳しく、何が何でも結果を出す！



ふくい あやか  
**福井 彩夏 [COX]**

- ① スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科
- ② 私立同志社女子高等学校
- ③ 158cm
- ④ 万里一空の精神で挑みます



もり のりこ  
**毛利 宣子 [学連]**

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立筑紫女学園高等学校
- ④ 同志社ボートの勝利のためにサポーターとして力を尽くします



やぎ まりな  
**八木 鞠菜 [広報]**

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立賢明女子学院高等学校
- ④ すべての行動に責任を持ち、漕手と共に勝利を目指します



みつだ まみこ  
**光田 真美子 [艇友会]**

- ① 政策学部政策学科
- ② 愛知県立津島高等学校
- ④ 未来の自分に後悔をさせない選択をする



おhta さよ  
**大田 彩葉 [栄養]**

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立同志社女子高等学校
- ④ 感謝の気持ちを忘れず、悔いの残らぬようやりきる



ふくしま さほ  
**福島 沙帆 [統制]**

- ① 社会学部教育文化学科
- ② 京都市立西京高等学校
- ④ 全力を尽くす



ひばな なな  
**日花 奈々子 [広報]**

- ① 社会学部メディア学科
- ② 京都市立西京高等学校
- ④ 部の勝利のために尽力します



やまだ しゅうじ  
**山田 俊正**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立白陵高校
- ③ 185cm/82kg
- ④ インカレ優勝



まつもと まさき  
**松本 昌樹 [学生コーチ]**

- ① 法学部政治学科
- ② 埼玉県立熊谷高等学校
- ③ 172cm/71kg
- ④ 決断の年

**新3回生**



うら ようすけ  
**浦羅 陽介**

- ① 商学部商学科
- ② 兵庫県立星陵高等学校
- ③ 177cm/72kg
- ④ 自分史上最高の夏にする



くわた ひろき  
**桑田 大輝**

- ① グローバル地域文化学部 アメリカコース
- ② 兵庫県立姫路東高等学校
- ③ 184cm/75kg
- ④ 死ぬ気で追い込む1年にする



たかもと しゅうじ  
**高本 正之甫**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立高槻高等学校
- ③ 177cm/72kg
- ④ 日本一になる

2019年度

**現役部員紹介**

①学部・学科 ②出身高校 ③身長・体重 ④今シーズンに向けてひと言



**新4回生**



なかむら かい  
**中村 魁 [副将]**

- ① 法学部法律学科
- ② 兵庫県立洲本高等学校
- ③ 177cm/74kg
- ④ 楽しく過ごす



ふじわら たかし  
**藤原 嵩 [主将]**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 178cm/76kg
- ④ 日本一へ、ボート人生最終章



おおた ともや  
**大慈 智哉**

- ① 商学部商学科
- ② 兵庫県立兵庫高等学校
- ③ 174cm/74kg
- ④ 俺たちで勝つ



あんどう ゆうさく  
**安藤 優作**

- ① 経済学部経済学科
- ② 福岡県立城南高等学校
- ③ 180cm/72kg
- ④ インカレ優勝



おおた えいしゅう  
**大谷 鋭周**

- ① 文学部英文学科
- ② 函館ラ・サール高等学校
- ③ 174cm/75kg
- ④ 優先順位を持つ



じんぐう けんすけ  
**神宮 健輔**

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立広尾学園高等学校
- ③ 188cm/80kg
- ④ 報恩謝徳と不撓不屈の精神を持って競技に取り組み、組織に関わる



なかざわ まさひろ  
**中澤 正浩**

- ① 経済学部経済学科
- ② 兵庫県立甲南高等学校
- ③ 176cm/80kg
- ④ 有終の美



やまもと こうのすけ  
**山本 幸之介**

- ① 商学部商学科
- ② 私立三田学園高等学校
- ③ 171cm/69kg
- ④ 3年間の集大成を見せる



ふじおか てんしょう  
**藤岡 天翔**

- ① 商学部商学科
- ② 私立修道高等学校
- ③ 164cm/67kg
- ④ 日本一



おおた だい  
**大谷 大**

- ① 経済学部経済学科
- ② 大阪府立高槻北高等学校
- ③ 183cm/73kg
- ④ 笑って引退します



しみず りょう  
**清水 諒**

- ① 経済学部経済学科
- ② 山口県立宇部高等学校
- ③ 178cm/68kg
- ④ 日本一になって終わる



たがわりょうた  
**田川 凌大**

- ① 政策学部政策学科
- ② 神戸市立六甲アイランド高等学校
- ③ 190cm/81kg
- ④ 127期の先輩方が再び築いた強い同志社を継受し、さらなる高みを目指し躍動し続ける



いじま ひろき  
**生駒 宏武**

- ① グローバルコミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科
- ② 私立三田学園高等学校
- ③ 175cm/70kg
- ④ 楽しむ、そして勝つ



あしだ いちろう  
**芦田 一郎**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 163cm/67kg
- ④ 悔いなく走り抜けます



**おちあい ももか**  
**落合 萌々花**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 160cm
- ④ 勝ちにこだわったレースができたらいいなと思います



**たけやす れいか**  
**武安 玲佳**

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 156cm
- ④ 昨シーズンの自分を超えていく



**ひらばやし わかな**  
**平林 若奈【学生コーチ】**

- ① 文学部英文学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 153cm
- ④ できることからコツコツやっていきたい



**こにし れいこ**  
**小西 礼子【艇友会】**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立愛知淑徳高等学校
- ④ 部の勝利のため、マネージャーとして何ができるかを考え、一生懸命頑張ります



**くぼた りりこ**  
**久保田 理々子【広報】**

- ① 神学部神学科
- ② 埼玉県立熊谷女子高等学校
- ④ できることを精一杯頑張ります



**いとい がわ**  
**糸魚川 みどり【トレーナー】**

- ① 経済学部経済学科
- ② 北海道札幌旭丘高等学校
- ④ 縁の下の力持ち



**きむら あかり**  
**木村 朱里【学連】**

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ④ 初心を忘れずに、去年よりも部に尽くしたい



**しょうじ**  
**庄司 ゆみ【統制】**

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立須磨学園高等学校
- ④ 少しでも漕手の力になれるように頑張ります



**おおがき せいな**  
**大垣 誠奈【栄養】**

- ① 政策学部政策学科
- ② 西宮市立西宮東高等学校
- ④ 自分らしく今年も頑張ります



**いもと ふとし**  
**井本 太**

- ① 文学部美学芸術学科
- ② 福岡県立筑紫丘高等学校
- ③ 170cm/66kg
- ④ 全力で頑張ります



**あんどう あきひろ**  
**安藤 亮裕**

- ① 政策学部政策学科
- ② 同志社香里高等学校
- ③ 176cm/68kg
- ④ 向上心を忘れず、心も体も成長できるようにする

新2回生



**おきなか ともや**  
**沖中 朋也**

- ① 商学部商学科
- ② 東海大学附属仰星高等学校
- ③ 171cm/63kg
- ④ 充実した大学生活にする



**おおが たくと**  
**大賀 拓人**

- ① 理工学部電気工学科
- ② 同志社香里高等学校
- ③ 175cm/75kg
- ④ 誰よりも成長するつもりで頑張ります



**いちかわ たくま**  
**市川 巧真**

- ① 社会学部社会学科
- ② 愛知県立千種高等学校
- ③ 168cm/70kg
- ④ 結果を残す



**くろす しゅうた**  
**黒須 脩太**

- ① 経済学部経済学科
- ② 栃木県立真岡高等学校
- ③ 177cm/77kg
- ④ 常に高みを目指し、今シーズンを完遂します



**かくらい けん**  
**加倉井 健**

- ① 法学部法律学科
- ② 大阪府立春日丘高等学校
- ③ 178cm/83kg
- ④ 勝つ漕手になります



**かいどう ゆうま**  
**階堂 祐真**

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 同志社香高等学校
- ③ 167cm/64kg
- ④ ゴリゴリに攻める



**わだ しょうへい**  
**和田 匠平【トレーナー】**

- ① 法学部法律学科
- ② 滋賀県立石山高等学校
- ④ より高度なサポート体制を確立し、漕手たちと共に勝ちを目指します



**とみしま だいち**  
**富嶋 太地**

- ① 法学部法律学科
- ② 奈良県立生駒高等学校
- ③ 165cm/66kg
- ④ 花開くまで挑戦



**ふくしま だいち**  
**福島 大智**

- ① 経済学部経済学科
- ② 滋賀県立石山高等学校
- ③ 176cm/69kg
- ④ 同志社に欠かせないピースになります



**なかの こうじ**  
**中野 昂士**

- ① 商学部商学科
- ② 山口県立宇部高等学校
- ③ 180cm/83kg
- ④ 勝つために努力します



**かぎ こうへい**  
**加木 康平**

- ① 社会学部教育文化学科
- ② 大阪府立夕陽丘高等学校
- ③ 172cm/70cm
- ④ 部の主戦力となっていけるように頑張ります



**はせべ まさや**  
**長谷部 正也**

- ① 法学部法律学科
- ② 岐阜県立長良高等学校
- ③ 172cm/80kg
- ④ 勝ちにこだわり、結果を残す



**みき たかひろ**  
**三木 貴博**

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 183cm/73kg
- ④ どんな結果になっても後悔しないようトレーニングをし、満足のいくシーズンにする



**はしもと けんたろう**  
**橋本 健太郎**

- ① 法学部政治学科
- ② 奈良県立奈良高等学校
- ③ 176cm/67kg
- ④ 日々挑戦



**やまもと りょうた**  
**山本 涼太**

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 176cm/70kg
- ④ 自分の無力さを痛感した昨シーズン、今シーズンで必ず結果を残します



**たけうち つとむ**  
**竹内 努**

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 私立松本第一高等学校
- ③ 186cm/77kg
- ④ sexy rowing



**もとみや しゅうご**  
**本宮 秀悟**

- ① 法学部法律学科
- ② 私立多摩大学附属聖ヶ丘高等学校
- ③ 173cm/70kg
- ④ 耐え忍ぶ



**とつか しゅんと**  
**戸塚 駿斗**

- ① 商学部商学科
- ② 群馬県立共愛学園高等学校
- ③ 181cm/77kg
- ④ ひとつでも多く勝てるように練習に取り組む



**しろうず あきひろ**  
**白水 亮兆【COX】**

- ① 商学部商学科
- ② 福岡県立筑紫丘高等学校
- ③ 179cm/55kg
- ④ 挑戦



**とくなが たくと**  
**徳永 拓人【COX】**

- ① 理工学部機能分子・生命科学科
- ② 大阪府立四条畷高等学校
- ③ 165cm/55kg
- ④ クルーとともに成長していきます！



**たに りょうと**  
**谷 陵登**

- ① 法学部政治学科
- ② 福岡県立東筑高等学校
- ③ 183cm/73kg
- ④ 勝つ！



**たに みお**  
**谷 美緒**

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 159cm
- ④ 各試合で上位層に食い込む



**やまもと ももか**  
**山本 百華**

- ① 文学部英文学科
- ② 山口県立下関西高等学校
- ③ 167cm
- ④ 勝ちを知るシーズンにする



**ながとみ ちひろ**  
**永富 千尋**

- ① 経済学部経済学科
- ② 福岡県立東筑高等学校
- ③ 172cm
- ④ 一戦一戦、全力で挑みます！

**佐藤 遥奈**【体育会本部】  
 ① 商学部商学科  
 ② 宮城県仙台南高等学校  
 ④ チームの勝利のため、全力でサポートします

**山崎 優有**【トレーナー】  
 ① スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 ② 中京大学附属 中京高等学校  
 ④ 新しいことに挑戦する

**細川 瑞姫**【トレーナー】  
 ① 政策学部  
 ② 大阪府立清水谷高等学校  
 ④ 考える

**中森 佐和子**【艇友部】  
 ① 社会学部社会福祉学科  
 ② 鳥取県立鳥取西高等学校  
 ④ 部のためにサポートに力を尽くします

**藤本 美玖**【広報】  
 ① 法学部政治学科  
 ② 兵庫県御影高等学校  
 ④ 部のために自分にできることを考え、ひとつひとつのことに責任を持って取り組めるよう頑張ります

**春田 ひかる**【広報】  
 ① 法学部政治学科  
 ② 兵庫県星陵高等学校  
 ④ 少しでも部の力になれるよう全力でサポートして参ります

**安岡 京香**【統制・栄養】  
 ① 商学部商学科 商学総合コース  
 ② 京都教育大学 附属高等学校  
 ④ 部の勝利のために、多方面から全面サポートに励みます

**高木 栄次**  
 ① 法学部法律学科  
 ② 香川県立高松西高等学校  
 ③ 178cm/82kg  
 ④ 全力で頑張ります

**小森 京**【トレーナー】  
 ① 法学部政治学科  
 ② 同志社国際高等学校 附属高等学校  
 ③ 171cm/67kg  
 ④ 常に競争意識を持って練習に取り組み、体力と技術ともに向上させる

**小島 佑太**  
 ① 商学部商学科  
 ② 熊本学園大学 附属高等学校  
 ③ 181cm/74kg  
 ④ 昨年の成績を越える

**徳前 麟太郎**  
 ① 法学部法律学科  
 ② 石川県立 金沢二水高等学校  
 ③ 177cm/66kg  
 ④ どんなときもあきらめません

**竹山 亮太**  
 ① グローバル地域文化学部 グローバル地域文化学科  
 ② 大阪府立 咲くやこの花高等学校  
 ③ 179cm/75kg  
 ④ Full Strength

**滝本 旺大**  
 ① 法学部法律学科  
 ② 私立立教池袋高等学校  
 ③ 167cm/72kg  
 ④ チームのためにできることを考え、精一杯頑張りたいと思います

**伴 航平**  
 ① 理工学部情報システムデザイン学科  
 ② 大阪府立千里高等学校  
 ③ 171cm/75kg  
 ④ とりあえず入賞する

**西村 雅親**  
 ① 社会学部メディア学科  
 ② 滋賀県立膳所高等学校  
 ③ 177cm/75kg  
 ④ 今年こそ獲ります

**西出 捷人**  
 ① 理工学部 インジェント情報工学科  
 ② 同志社高等学校  
 ③ 167cm/73kg  
 ④ すべての面で成長する

**石垣 愛衣**  
 ① 商学部商学科  
 ② 秋田県立本荘高等学校  
 ③ 156cm  
 ④ 常に成長し続け、勝てる漕手になりたいです

**石川 裕希乃**  
 ① スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 ② 大阪府立箕面高等学校  
 ③ 156cm  
 ④ 勝って自信をつけたいです

**堀 啓造**  
 ① 経済学部経済学科  
 ② 金光学園高等学校  
 ③ 174cm/78kg  
 ④ インカレに出られるような漕手に成長します

**三品 真理子**  
 ① スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 ② 大阪府立春日丘高等学校  
 ③ 161cm  
 ④ 成長の1年にする

**松元 遥香**  
 ① スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 ② 私立鹿児島高等学校  
 ③ 159cm  
 ④ 伸びるナンバーワンは私です！

**奥林 涼菜**  
 ① 理工学部化学システム創成工学科  
 ② 群馬県立 太田女子高等学校  
 ③ 162cm  
 ④ 成績を残す

**細川 奈央**【COX】  
 ① 政策学部政策学科  
 ② 関西大倉高等学校  
 ③ 150cm  
 ④ 成長できるように頑張ります

**谷本 陽花**  
 ① 政策学部政策学科  
 ② 三重県立津高等学校  
 ③ 169cm  
 ④ 根気強く、穏やかに！

**山本 紗奈**  
 ① 社会学部メディア学科  
 ② 同志社女子高等学校  
 ③ 156cm  
 ④ 大胆不敵。強くなることに全力を注ぐ





# コーチングスタッフ紹介



コーチ

## 能勢 政典

いつもお世話になっております。今期よりヘッドコーチに就任いたしました、能勢と申します。前任の平木ヘッドコーチが転勤になられたため、私に白羽の矢が立ちました。偶然にも思えますが、私は偶然だとは思いませんでした。きっと私とボートとは切っても切れない縁があるのでしょう。不思議です。なぜ漕手でもCOXでもなかった私が、なぜこんなにもボートに没頭しているのでしょうか。ひとつ言えることは、昨今のボート界において、最も高い可能性を持ち、そして最も熱いこのチームに、私は魅せられているのです。今、勝つために必要なすべてのカードが揃おうとしています。やるなら今しかありません。私は私のすべてを懸けます。たくさんの先輩方の想いが詰まったこのチーム、負けるわけにはいかないのです。



コーチ

## 杉藤 洋志

本年度よりコーチングスタッフに加わりました、杉藤洋志と申します。主に新人の指導を担当いたします。同志社大学は祖父の母校です。この任を「縁」がもたらした、私に与えられた天命であると感じております。「強豪ひしめく主戦場」から地理的に遠く離れている、という意味において、同志社大学が日本国内で置かれている状況は、世界のRowingのなかで日本が置かれている立場と実に似ていると思います。我々は、目先の相手に目を奪われるのではなく、世界の最先端に学ばなければならない。この競技は基本の積み重ねがモノを言う世界です。新たに競技に触れる新人たちが、強固な基礎を固めて、一気に日本の上位、そして世界を狙う。そのロマン溢れるチャレンジの力になれるよう、微力を注ぐ所存です。



リガー

## 大越 将洋

ご縁ありまして、リギングのサポートや指導および部の機材を全面的に見させております大越と申します。海外のクラブや代表チームでは、私のようなボートマンやリガーと呼ばれる専属メカニックの存在が一般的なのですが、国内大学クラブでは多分初めてかと思えます。ご存知の通り、ロウイングは用具スポーツですので、その選択や整備を誤ると、せっかく積み上げたトレーニングが無駄にしまいます。入部前からの経験者が少ない当部では、用具上での不確定要素をどれだけ減らせるかが、成功への大事な鍵のひとつです。学生や他のスタッフと力を合わせ、ひとつでも上の成績を、1日でも早い勝利を勝ち取りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



女子コーチ

## 今村 拓也

私は他大学出身者ですが、私の現役時代にはボート部に「女子」という文字は存在しませんでした。しかし時代は移り、今や女子全盛の時代。どの大学に行っても女子は男子と同じように、いや男子以上に活躍している大学も多数存在します。そして、この1年、同志社大学においても、女子部は大きく成長しました。強い女子部の土台を固めてくれた先輩たちの熱い思いを引き継ぎ、今期はさらにパワーアップした新しい歴史が誕生することでしょう。今、当部にはその可能性を十分に秘めた女子メンバーが揃っています。OBの皆さまにおかれましては、今年は琵琶湖へ、そして戸田へ、ぜひとも足をお運びいただきたい。『新しい歴史』が生まれる瞬間を生でお見せしましょう！



監督

## 武田 知也

2018年シーズンは関西選手権、インカレ、全日本選手権での多くの入賞があり、昨年より1段の階段を上った実感を持つことができました。しかし2019年シーズンでさらに上昇できる保証は何もありません。経験者主体のチームと比べると我が部に足りないことはとても多く、これ以上の先にはガラスの天井があるのではという恐れがあるのが実感です。とはいえ、部員たちには相当の覚悟をもって、一気に経験者チームの一角を崩していただかないといけません。監督は監督の仕事を、コーチはコーチの仕事に専念して、できたことを踏襲し、できなかったことに対し新しい施策を果敢に実行することが指導の王道であることを強く認識して指導にあたります。



コーチ

## 原 一雅

同志社艇友会員のみなさま、保護者の皆さまには日頃よりボート部に対しましてご協力・ご支援いただきありがとうございます。ローイングコーチとして2シーズン目を迎えた昨シーズン、学生たちの『本気のチカラ』を見せてもらうことができました。惜しくも当初の目標達成はならなかったものの、関西選手権での健闘、インカレでの大躍進、櫻間選手の世界選手権出場など、大学からボートを始めた素人集団でも本気で真剣に粘り強く取り組み手の届かないものではないということが証明されました。2019年シーズンも、現役選手・サポート陣の目標達成のためのフォローをさせていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。



コーチ

## 小原 隆史

昨年冬の就任から1シーズンを終え、なんとなく手応えのようなものを感じています。部員数は日本一になりました。正しいトレーニング指導と継続による体力面向上の結果、多くの選手の実力が底上げされ、あと一步のレースをいくつも経験しました。インカレ全クルー最終日進出と対校エイト金メダル達成という大きな目標に向け、何が必要か…？漕手はもちろんサポート陣も含め、現役みんなの頑張りを見てると、本気で近いうちに達成するんじゃないかと思っています。ヒーローもファインプレーもない究極の団体スポーツは水上の二人三脚。乗艇技術のさらなる向上に向け、共に追求していきますので、応援よろしくお祈りします。



コーチ

## 岩井 雄史

2018年シーズン、男子エイトは歴代最速タイムを記録した。少し順風だったけど、5分48秒27。6分を切ることにすら厳しかったことを考えると、大きな成長だろう。それなのに、漕手たちは誰ひとり満足していなかった。記録より日本一。ライバルたちの努力が上回っていると勝てないのがスポーツの厳しさだ。ゆえに、ライバルたちを意識して練習することで新たな知識、必要な技術、勝利をより確実にする戦略が育まれる。2019年度のチームスローガンは“Superior”。これにあやかって、より強く、より確実に、より賢く。これまで積み重ねてきたものを大切にしながら、我々コーチ陣もさらなる努力を積み重ねたい。今年こそ日本一！ OGOB、ご家族の皆さま、ご支援、ご声援よろしくお祈りします。



コーチ

## 堀田 裕希

OB・OG、そして保護者の皆さま、いつも多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。2018年度は関西選手権でエイト、クォドルブルの2種目制覇、さらに舵手付きフォアでの準優勝など、関西勢を相手に力の差を見せつけることができました。しかしながら、インカレではエイトが0.43秒差で決勝進出を逃し、クォドルブルは0.08秒差で優勝を逃すなど、あと一步のところ悔しい思いをしました。関西で圧倒的に勝つことができて、まだまだ関東勢との差は大きいと改めて実感いたしました。この、インカレで味わった「あと一步」は、私の普段の指導における「あと一步の詰めの甘さ」と認識しております。この悔しさをバネに、出し惜しみのないように再び強化に努めてまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願い致します。



## 同志社大学ボート部 理念

ボート競技を通じ  
知・徳・体の涵養に努め、  
良心に満ち溢れ  
自治自立の精神を備えた  
有為な人材を輩出することにより  
社会に貢献する。

## 平成30年度 ボート部にご支援いただいた皆さま いつもご支援ありがとうございます。来年度もよろしくお願い申し上げます。

昭和 39 年卒 中原 克己	昭和 56 年卒 池谷 晋 荒山 元秀	平成 2 年卒 朝倉 伸二 石橋 雅信	平成 10 年卒 有馬 誠生 石橋 欣也	平成 22 年卒 大沼 茂彬 佐藤 勇樹	平成 29 年卒 田井 哲朗 中來田 悠介
昭和 40 年卒 丸山 英敏 池田 宜郎 石本 君夫	細見 博 中住 慎一 中辻 努 内海 久俊 野瀬 正治	坂本 竜一 島田 恭典 配川 隆司 北村 正樹 朝倉 優子	岩田 勇人 岡前 秀彦 渋谷 一郎 竹野内 直毅 高橋 功 内藤 竜一 中原 輝宣	千原 第資 三谷 大輔	津田 邦泰 平田 耕一 阪 悠樹 中山 奈美
昭和 41 年卒 大宮 久	昭和 57 年卒 目片 雅喜 森 保二	平成 3 年卒 乾 健治 小原 隆史	平成 11 年卒 網嶋 雄一郎	平成 23 年卒 園田 真大 西本 孝志	平成 30 年卒 松本 直弥 能勢 政典
昭和 44 年卒 山本 克美 塚本 和夫	林 圭介 林田 尚之 久保 智之 山本 健也 松山 厚志 永野 巖 河毛 樹	重松 健一 榑原 雅也 佐藤 将人 津嶋 泰 三上 和彦 安達 祥子 岡田 太一郎 杉山 伸	平成 12 年卒 若杉 圭 高橋 輝	今関 将太 打它 晃 木下 啓史 森福 将之 福重 太郎 田中 克弥 池田 ひかる 奥 知里 西岡 成美 今井 文美	阿部 正典 糸魚川 宗志 大森 健太 桑原 康彰 奥谷 翔 宮田 将平 星野 夏貴 北野 裕樹 黒田 宗一郎 佐武 宏哉
昭和 45 年卒 新井 喜範 清水 正俊 小林 徹	昭和 58 年卒 小森 進治 和田 学	平成 4 年卒 谷 昌二郎 小林 重之 小田切 拓 加藤 康 功力 英俊 勝本 肇 吉田 拓生 米山 尚吾	平成 13 年卒 井口 順太 錢谷 剛志 高橋 毅 吉田 亮 高橋 弥紀 菊山 峰子	平成 24 年卒 畑田 聖 関本 駿 中村 康治郎 濱島 昌輝 千原 奈美 上田 奈保子	西川 修眞 横田 颯一郎 松坂 滉 古賀 寛之 三井 敏匡 村田 真哉 高瀬 絵留萌 八木 友菜 山口 真奈 近藤 晴子 前田 真奈 田口 夕侖乃
昭和 47 年卒 横山 基嗣	昭和 59 年卒 米村 康弘 河南 潤治 谷口 幸一 作間 秀樹 松本 収平	平成 5 年卒 内田 琢也	平成 14 年卒 山田 篤	平成 25 年卒 南出 貴裕 鈴木 直道 中田 幸祐 谷田 浩毅 高橋 美帆 長畑 真実	
昭和 48 年卒 若菜 英作 山口 俊朗	昭和 60 年卒 伊藤 寛 石鍋 寿久 矢野 英明 小森 康充	平成 6 年卒 押領司 哲也 喜多 栄太 中澤 郁男 早坂 真一 堀内 昭宏 中西 孝夫 松城 敬 余谷 有紀枝 木内 良典 竹内 秀暢 藤井 啓宏	平成 15 年卒 赤尾 宣彦 木口 学	平成 16 年卒 今東 俊雄 鳥井 淳 中村 洋太郎 松尾 智之 村井 亮	平成 26 年卒 池本 雅基 万木 恭介 檜垣 聡志 谷井 沙衣
昭和 49 年卒 小松 研一 植西 信子 楠戸 俊宣 花森 節夫	昭和 61 年卒 川崎 五代嗣 高下 康治 磯田 秀樹 谷川 真司 中村 俊裕 安田 克裕	平成 7 年卒 佐伯 明 伊藤 崇 小吹 悟 大石 文穂 大津 伸子	平成 17 年卒 岡田 大介 岡田 綾子 行實 幹人 渡辺 雄介	平成 19 年卒 角谷 明彦 中村 周作 古池 美岐	平成 27 年卒 日比野 聖司 佐藤 拓朗 三島 奈々 新垣 彩実 丸尾 拓也 川村 佳苗
昭和 50 年 宮地 信行 鎌田 博 植野 誠之	昭和 62 年卒 樋口 健一郎 奥谷 勇人 屋久 浩典 藤田 哲哉 志賀 理	平成 8 年卒 岡本 和彦 小林 賢史 武田 知也 白田 圭助 渡辺 将常 木原 聡 山田 寛幸 薄 真理 高橋 彩	平成 20 年卒 渡辺 涼太 片岡 勇人 可児 怜央	平成 28 年卒 今富 圭一 中小路 悟 平井 貴大 入村 悠 大隅 清貴 松村 啓介 山田 高輝 川野 由季 葉山 顕祥 政井 克哉 勝島 愛	
昭和 51 年 湊 良三 湊 裕子 武尾 豊	昭和 63 年卒 阿江 克彦 原 一雅 斎藤 繁明 平松 靖之	平成 9 年卒 奥 哲史 関根 佐和子 渡辺 綾子	平成 21 年卒 川口 正嗣 瀬川 敏克 有木 良輔 金野 裕輝 川淵 智貴 内藤 毅人 北野 万里香		
昭和 52 年卒 狹野 義明 中野 貴夫 矢島 正恒 河畑 宣伸 馬杉 淳一	平成元年卒 関谷 晴彦 石田 政隆 井上 周一 大島 昭子				
昭和 53 年卒 桶田 英俊					
昭和 54 年卒 木村 俊雄 高橋 正樹 村田 市郎 小笠原 司 藤井 浩					
昭和 55 年卒 益田 秀仁 石鍋 寿明 井頭 感 小関 隆一 水野 正成 玄道 秀則 桜井 隆夫					

※敬称略 ※艇友会費を納入いただいた方および寄付金をいただいた方を掲載しています。

**セブン-イレブン**  
 大津瀬田西インター店  
 〒520-2134 滋賀県大津市瀬田3丁目24-6 TEL:077-543-8823

**YOU and ME**  
 喫茶・お食事  
 サイフォンで淹れる  
 コーヒーと、味わい深い  
 白金豚のお料理は  
 いかがですか？  
 〒520-2132  
 大津市神領3丁目21-19 金子野和第1ビル1F  
 TEL/FAX (077)532-6935

**喫茶 & 食事**  
**TOLEDO**  
 MUROMACHI  
 KAMIDACHORI  
 屋町上立売  
 〒520-2134 滋賀県大津市瀬田3丁目24-6 TEL:077-543-8823

**薪窯キッチン ペロッタ**  
 滋賀県大津市玉野浦 6-1  
 びわ湖湾艇場内  
 077-544-1099  
 11:00-15:00 (L.O.14:30)  
 17:30-22:00 (L.O.21:30)  
 定休:火曜日 駐車場あり  
<http://perrotta-kitchen.com>  
 ネット予約可

焼肉のフルコース **世界一周**  
**近江牛**  
**焼肉 麗門 駅前店**  
 REIMON  
<http://www.reimon8929.com/>  
 営業時間:夜 17:00 ~ 23:00 (L.O.22:00)  
 TEL 077-537-3700  
 滋賀県大津市粟津町 8-1 (JR 石山駅前)

そば 一品料理  
**あみさだ**  
 大津市瀬田1丁目 19-31 TEL:077-545-0011

**あみさだ**  
 AMISADA  
 TEL:077-537-1780  
 FAX:077-537-1791  
<http://amisada.jp>  
 〒520-0851 大津市唐橋町23-1 [瀬田唐橋中の島南側]

カフェ・レストラン **アドリア**  
 湖岸道路唐橋下ル TEL:077-537-3355

**SUBURU**  
 - CAFE & SALON -  
 〒520-0851 大津市唐橋町23-1 [瀬田唐橋中の島南側]

**京阪シルク**  
**京のちりめん 問屋**  
 Chirimer  
 丹後ちりめんと、  
 京友禅の融合した伝統美  
 京阪シルクは和装小物・袋物用素材・和雑貨の  
 企画開発をしています。  
 近年は特にちりめんに注力した素材を提供して  
 います。  
 丹後ちりめんと京友禅の融合した伝統美をお楽しみ  
 ください。  
 〒600-8108  
 京都市下京区五条通西洞院東入る  
**TEL:075-351-2340**  
**FAX:075-351-4352**  
[www.keihansilk.com](http://www.keihansilk.com)  
 YUZEN MUJI KINRAN WACHO SOZAI COMPANY

**同志社艇友会の皆さんへ**  
 マスターズで漕ぐボート、そこには学生時代のボート部とは全く違う世界があります。  
 ボートこそ、生涯スポーツに最適な種目です。“漕縁”が人生の新たなネットワークを生み出します。  
 北海道、関東、関西、全国に仲間がいます。一緒に漕ぎましょう。お気軽に連絡ください。  
 【連絡先】  
 小関隆一(昭和55年卒)  
 携帯:090-7273-9968  
 メール:r.koseki@hobbyspace.co.jp  
 石橋欣也(平成10年卒)  
 携帯:090-8346-1574  
 メール:wmrpt31414840116@gmail.com  
 ヘッドオブ瀬田2018完漕 鶴見川東西対抗戦(学習院OBに勝利)  
**営業力強化研修をご提案します!**  
**研修実績:**大阪府庁、東京都庁、キッコーマン、野村證券、大塚商会、日本生命、富士通、NEC、  
 日本経済新聞社、パナソニック、大阪ガス、三菱UFJ銀行、ローソン、SMBCコンサルティング、他  
**小森コンサルティングオフィス** 代表:小森 康充(昭和60年卒)  
**URL** <http://www.giantkevin.com>  
**メール** [yasumitsu.komori@gmail.com](mailto:yasumitsu.komori@gmail.com)  
**プロフィール:**P&G等外資系企業で20年間の営業キャリア、その後神戸学院大学で客員教授に就任、  
 2009年に営業力強化コンサルタントで独立。現在はビジネス社会の勝利と成功をサポートするため  
 企業研修を年間150回実施している。著書に「スベらない商談力」「リーダー 3年目からの教科書」等  
**3年目からの教科書**  
 リーダーシップ  
 メンバー育成  
 マネジメント  
 「信頼関係」がすべて  
 17年間P&Gで実績を出し続け、  
 その後2万人に指導した方法を初公開

# ナジック・アイ・サポートは 同志社大学の学生を応援しています

ナジックグループは、「“学生が宝。期待以上のナジック”を目指してこれからも挑戦を続けます」をキーワードに様々な事業を推進しています。ナジック・アイ・サポートでは、学生と社会を繋ぐことを使命に、アルバイト紹介サイトの運営、有給インターンシップ「ワークプレイスメント」の推進を行っています。

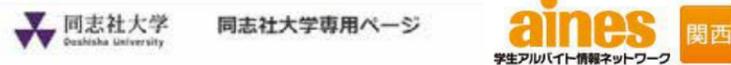
学業や、クラブ練習の間に無理のないアルバイトを！  
学生アルバイト情報ネットワーク「アイネス (aines)」

安全・安心

面白い・学べる

学業・クラブ両立

aines(アイネス)は学校(大学・短大・専門学校)別のアルバイト情報サイトです



同志社大学専用ページ



<https://www.aines.net/doshisha/>

3年生になったら就職サポート！  
有給インターンシッププログラム「ワークプレイスメント」

興味のある仕事にどんどんチャレンジ

アルバイト + インターンシップ  
||

ナジック・ワークプレイスメント



3年生向け有給インターン (全46件)  
リアルな業界研究が出来るインターンシッププログラム

お給料をもらいながら社員のアシスタントとして勤務

- ★おすすめポイント
- ①時給がもらえる 時給平均1,000円
- ②会社の実態が分かる
- ③隠れた優良企業に出会える
- ④都合に合わせた勤務が可能

ナジック・ワークプレイスメント(就労体験型学生派遣)とは、アルバイトよりも実践的で、インターンシップとは違って報酬(お給料)を得ることが出来る、アルバイトとインターンシップのメリットを融合させた新しい就労体験の形です。

nasic 株式会社ナジック・アイ・サポート  
学生情報センターグループ

株式会社 ナジック・アイ・サポート キャリア支援部  
大阪市淀川区西中島5-4-20中央ビル2F 電話:06-4806-0551  
Mail: info-osk@nasic-is.co.jp

進学

初めての引越しは  
「**単身パックS**」で。



マイホーム

家族の大切な引越しは  
「**フルプラン**」で。



就職

荷物の増えた引越しは  
「**単身パックL**」で。



人生

まるごと

まかせて

安心。

海外赴任

海外への引越しは  
「**ハートライナー**」で。



結婚

近距離の引越しは  
「**単身パック当日便**」で。



住み替え

家族のお得な引越しは  
「**セルフプラン**」で。



引越し  
は日通

0120-154022

引越しは日通 検索

# 賢く筋肉をつける。

NEW TRAINING STYLE

## すべてのプロテインは、やがてこうなる。

プロテインユーザーをシェイカーから解放します。

あのかさばるシェイカーをもう持ち運ばなくていい。  
溶かさなくていい。洗わなくていいのです。

アミノプロテインは、シェイカー不要。  
そのまま飲めるスティックタイプ。

1回分わずか4gだから、  
いつでもどこでも最適なタイミングを逃さず、  
プロテインを摂取することができる。  
そのあとに食事を楽しめるようになります。

にわかに信じがたい？  
あのプロテインのゴクゴク感がいい？  
そう感じるあなたにこそ試してほしい。

もっといいトレーニング方法があれば、  
積極的に取り入れてみるはずです。  
どこを鍛えるために何をすべきか、  
より合理的なやり方を求めていくはずです。

今こそその頭の柔らかさを、  
プロテインにも向けてほしい。  
これまでの先入観を捨てて。

賢く筋肉をつけよう。

これからの常識にきつとなる。  
今はまだ新しい、プロテインの摂り方。

アミノプロテイン、登場。

AMINO  
PROTEIN  
アミノプロテイン

NEW

